



和漢陰陽傳

全

1-9  
1149



門口  
1149  
卷

和漢陰陽傳序

親<sup>おや</sup>と其<sup>その</sup>子<sup>こ</sup>小<sup>こ</sup>道<sup>みち</sup>を教<sup>し</sup>子<sup>こ</sup>の教<sup>し</sup>順<sup>したが</sup>ふを人<sup>ひと</sup>乃<sup>のみ</sup>是<sup>こ</sup>とす。親<sup>おや</sup>とて子<sup>こ</sup>を慈<sup>あは</sup>愛<sup>い</sup>せざるいなすといふも。世<sup>よ</sup>管<sup>かん</sup>はくまはる市<sup>いち</sup>人<sup>にん</sup>農<sup>のう</sup>夫<sup>ふう</sup>の教<sup>し</sup>る小<sup>こ</sup>力<sup>ちから</sup>ゆよは子<sup>こ</sup>も亦<sup>また</sup>学<sup>まな</sup>ぶ小<sup>こ</sup>及<sup>およ</sup>びさ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>は童<sup>どう</sup>蒙<sup>もう</sup>家<sup>か</sup>女<sup>にょ</sup>兒<sup>に</sup>の趣<sup>しゆ</sup>妙<sup>めう</sup>も。画<sup>え</sup>卷<sup>くわん</sup>絵<sup>え</sup>本<sup>ほん</sup>を典<sup>あづか</sup>る<sup>る</sup>玩<sup>あそ</sup>弄<sup>ぶ</sup>する者<sup>もの</sup>。たゞ卑<sup>ひ</sup>陋<sup>ろう</sup>猥<sup>わい</sup>雜<sup>ざつ</sup>小<sup>こ</sup>汚<sup>け</sup>るもの成<sup>な</sup>除<sup>り</sup>せ。忠<sup>ちゆう</sup>孝<sup>かう</sup>をた<sup>た</sup>るひ仁<sup>にん</sup>義<sup>ぎ</sup>を脩<sup>しゆ</sup>くる。古<sup>こ</sup>賢<sup>けん</sup>の事<sup>こと</sup>跡<sup>せき</sup>を丹<sup>たん</sup>書<sup>しよ</sup>彩<sup>さい</sup>之<sup>の</sup>語<sup>ご</sup>を法<sup>ぽう</sup>とて。年<sup>とし</sup>幼<sup>せう</sup>稚<sup>ち</sup>れ耳<sup>みみ</sup>目<sup>め</sup>に入<sup>い</sup>るを要<sup>えい</sup>

序

親教乃力を圖作て子たあづ教小作小捷徑た  
常小かる畫本を多く求め給く。家の子弟をとり  
てて人の兒女小授け弄致せむる。祖簡古其言  
意趣解し屋すく画様卑俗たさばるもの。信傳傳小  
志をも形。此書乃他者藤井懶齋翁さむる。此  
頃學鴻儒の大孝を以てはるぎある假字小つる。祿  
出像をさく加らまじる用意必るに有下。頃日原板  
磨減して是ふ堪ず。再刻を企るふ母心てお北の雨子

好く是小画がところ。さうに精密を加く切書成導  
一冊となれり。かゝる書梓小在堂予小序言成也予為小  
此書成多く求る故なるべし。予亦為子此書を  
多く求る故を志してたふふ人

天保十一年壬午正月 安尖多善民誌

陰陽傳序

世人と云ふ家と禍あつて福わたり成。福と云ふと云ふ  
ひふ善と云ふを急をたらしむるを善と云ふを善と云ふ  
むとたらしむるを善と云ふを善と云ふを善と云ふを善と云ふ  
と云ふを善と云ふを善と云ふを善と云ふを善と云ふを善と云ふ  
はら。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
月日神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
のぐ。福祭志と云ふ。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
あつれませぬ。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
易の餘を又餘と云ふ。詩と云ふ。詩と云ふ。詩と云ふ。詩と云ふ。詩と云ふ。  
詠。書と云ふ。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。

あつと云ふ。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
とどよみ。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
よと云ふ。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。  
おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。神佛并に家に入す。おほく。

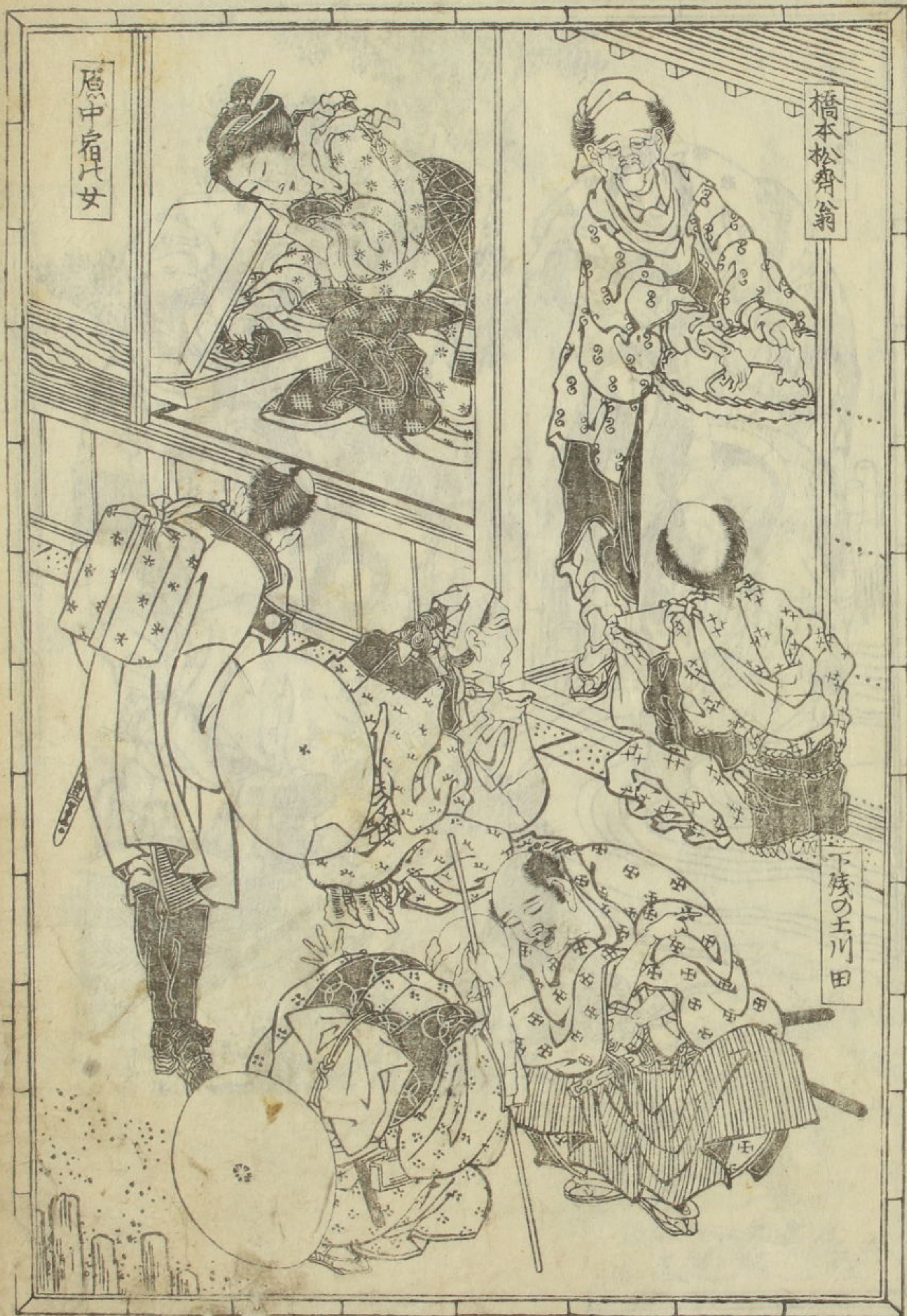
陰陽傳序

とてこのりけりしき人先をよみ見舞ふといふくそれ  
蓋しあかしの母とす。後よりの事はあかしの世よむはくは  
まほしきとせ。かゝる本は海をその市町野山の山やしたる。  
よはげしむと成おそれて出づる心そり母倭語あらわ  
く其さまと縁よあらう。はるで又類か形づくてと  
ぬらよかえきるをとこれとていふま。末よこれらのあ  
ゆふ求えたるをわんあるぬ人の傳きづく二十ふひの  
とく又傳乃ありてと。むそふあわがらるるをのきく  
深論にうござる。名づもそを海と為善縁といふ。是れ  
海くる成このむよはらふ。教も今と昔とをなすりり  
うたがあげり。一なればせめくはうはるすててふ

そはあかしの母とす。後よりの事はあかしの世よむはくは  
蓋しあかしの母とす。後よりの事はあかしの世よむはくは  
まほしきとせ。かゝる本は海をその市町野山の山やしたる。  
よはげしむと成おそれて出づる心そり母倭語あらわ  
く其さまと縁よあらう。はるで又類か形づくてと  
ぬらよかえきるをとこれとていふま。末よこれらのあ  
ゆふ求えたるをわんあるぬ人の傳きづく二十ふひの  
とく又傳乃ありてと。むそふあわがらるるをのきく  
深論にうござる。名づもそを海と為善縁といふ。是れ  
海くる成このむよはらふ。教も今と昔とをなすりり  
うたがあげり。一なればせめくはうはるすててふ

海防

長考



原中宿比女

橋本松齋翁

下族の土川田



大江の定基

不破比呂部

南都の悪僧

吉笠衛門藤組

長考



李善 りぜん

胡宿 こしゆく

李珣 りしゆん



駟馬共 しんばとも

王商 おうしやう

孫叔敖 そんしゆく

陰騭傳目錄

- 一 滋野朝臣貞主
- 二 左大將仲平
- 三 大江定基
- 四 北條時頼
- 五 青砥藤綱
- 六 南都惡僧
- 七 原中宿女
- 八 古田大膳太夫
- 九 勢州川田氏
- 十 不破民部
- 十一 橋本松齋
- 十二 古田大膳太夫
- 十三 關敞
- 十四 姚氏
- 十五 駱公緒
- 十六 劉凝之
- 十七 楊震
- 十八 雷義
- 十九 公儀休
- 二十 駙馬共
- 廿一 王旦
- 廿二 張齊賢
- 廿三 王商
- 廿四 寶禹鈞
- 廿五 瞿嗣興
- 廿六 馮俊
- 廿七 吳舟師
- 廿八 章氏妻
- 廿九 羅夫人
- 三十 馮商
- 卅一 米軾
- 卅二 葛繁
- 卅三 張八公
- 卅四 蔣生
- 卅五 鄭叔通
- 卅六 張孝基
- 卅七 孫叔敖
- 卅八 伏湛
- 卅九 王丹
- 四十 李善
- 四十一 表安
- 四十二 王忱
- 四十三 許遜
- 四十四 狄仁傑
- 四十五 郭震
- 四十六 裴度
- 四十七 崔郾
- 四十八 李珣
- 四十九 孫泰
- 五十 鍾離瑾
- 五十一 錢若水
- 五十二 陳堯叟
- 五十三 查道
- 五十四 韓魏公
- 五十五 王曾
- 五十六 王質
- 五十七 胡宿

和漢陰騭傳

一 滋野朝臣貞主



貞主の仁徳をその所時乃參後正四位下兼宮内少輔人有り。その本性慈悲を以てつひふ口の云禁のす衆人をしてうごかんと欲おそれてみまうに人老うへをいとほしと死人のむを以て下におろし見まう。その徳を稱してすめあげまう。見おろし。是を以てわたり。其のふよ一生能陰徳いふうりあむ。はまば仁孝二福人のまをいふ。其の時を。其世乃人老もあむ。其徳を深む。ておろし。其まぶるはあつとたり。息女二人あり。やうより。其まばのて。ことに見まう。其清寵愛をうむ。たをみと女みと。其ま。うみまひ。一。其徳をいふ。其貞主乃徳あり。



とぞ以る。文徳実録よ見えたり

人その子孫をのそをばとびとびあつてさうさうなる  
そのが身にあらはれあはせむ。そのが身にあるといふ。人乃父母  
その身小童をつめて子孫さうばる種あつたや。若くはあは  
根よはちうふ。母枝葉乃さうさうさう。其さうさうさうさう  
うさうさうさうさうさう。其さうさうさうさうさうさうさう  
なしてさうさうさう。あつたに彼あつたなるさうさう。物さうさうさうさう  
あつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
悦とほそれをゆづりうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
がさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

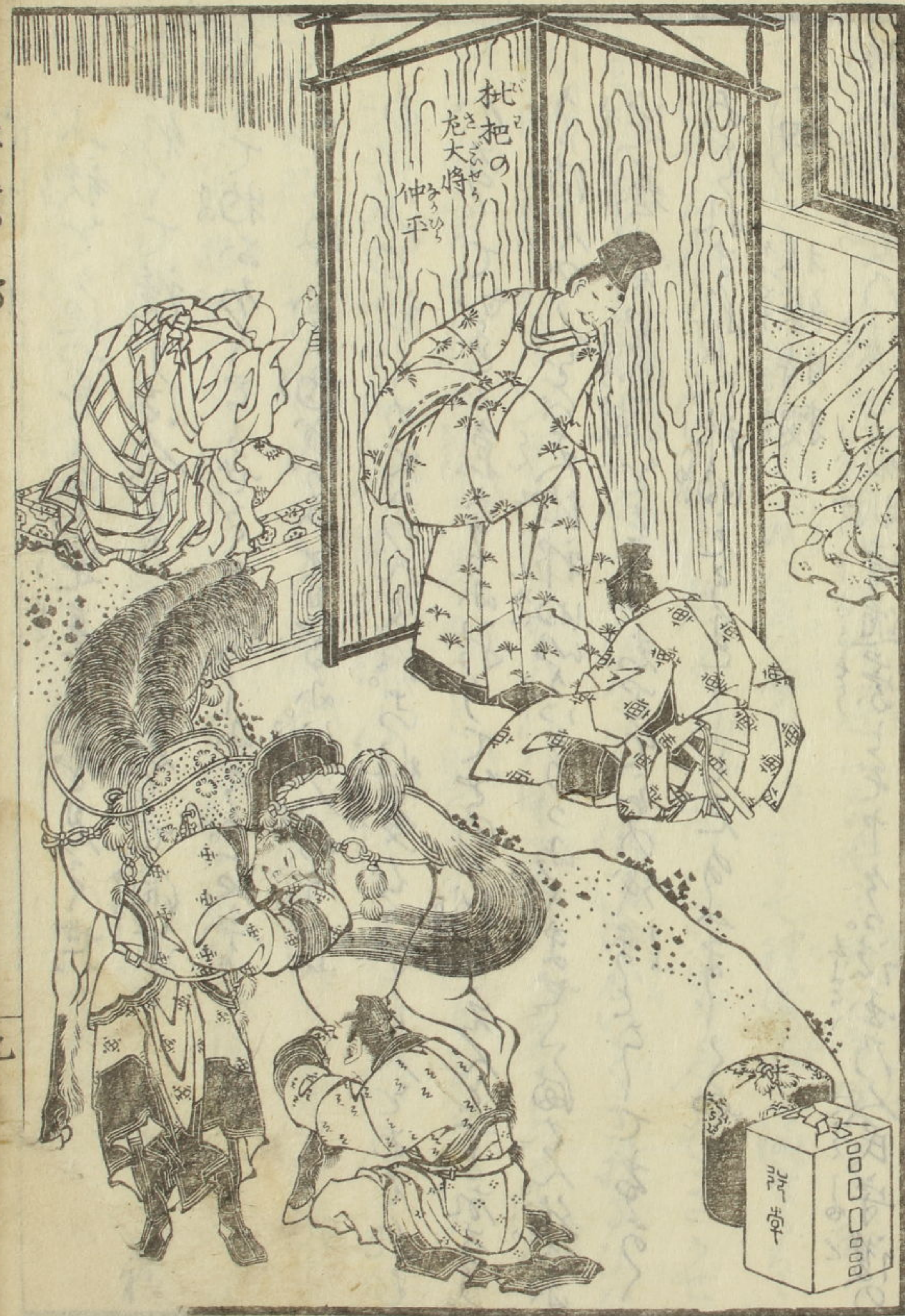
はぐ海をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
いづと賢賢の子さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

(二) 枇杷左大将仲平

朱雀院の時あやし紀星あつた。天文博士これさうさうさうさう  
大おさう人乃教よいづさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
以仲平は左大将よて小野宮実頼右大将あつた。実頼の家よ  
法寺法社の祈禱心まもあ。仲平乃のといひさうさうさうさうさう  
あつたさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
度の星あつた。星あつたさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
いづぬ方もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
みてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あまのつたおまたる海一といひた。けむらひをうへはらり  
実形と二人が中なり。この里みるは我年先くさへは。実  
い年ゆのりあまのげえをうへら。とが初を一あじありき。  
とむらひ実形乃身よあまた。朝家の清くめをあらうら  
はむばきを此人をたけいひゆき。我身乃初めをあらうらぬと  
形んうへられり。法師うきふら海に感後せれあへて  
いよく。ばは心をせむら。初禱のあまをささ。神も佛も海  
まよこばうあまの清きよらけむらひなるべしといひく。海をぬ  
あんがむらうらうらき。宇治拾遺物語に見えたり  
伴年形あり。忠信といひり中のぶるもあらうなり。天地  
神めいそふといひ。あまのむら。法師が感後をぬら

先えは。あまの世に心上なる人。うら君よ。忠ある  
屋うあるも。傍輩よ。あまのうけし。海に相没なり。  
いなる人。あまのうけし。我よりたけいひ。めむらと心さす。  
いそその人。あまのうけし。死をれ。うらと笑止とたむら海  
よそ心乃内。あまのうけし。天地神明乃清ま。あまの  
さやう。神人をとむら。海をいへ  
**(三)** 大江定基  
三河守大江の定基といひ。人あまのうけし。女乃い。うらやむら  
鏡をいかりて。持くうらにささむら。定基とらあまのうけし。  
その鏡乃清み紙よ  
うらあまのうけし。海乃清き。あまのうけし。新をい。あまのうけし。



といふ歌をくたつをくら。定基これを見く世をうらうら  
る形くて鏡う法人なり。多見とありて泪をかぐ。鏡をばど  
ずして物おろく。せうせうとく。ふくら。古今著聞集み見くら  
ふらうぬ人。心物。成りふと見ふ。小侘人。乃らうる物とあるを。神よ  
あはれをむくめて。うらんと。あはれ。夢むら。を。人。と。あ。は。れ。む  
ふ。あ。り。て。あ。ま。が。急。な。ら。ふ。お。お。り。て。あ。ま。が。利。を。え。ん。と。す。る。あ。ま。が。  
う。法。心。の。人。を。ば。天。地。神。の。心。が。う。ら。う。め。く。ま。せ。う。ゆ。え。ん。統。る。ふ  
定基人。心。急。難。を。う。ら。う。あ。ま。が。て。あ。の。成。ほ。ど。う。て。あ。ま。の。く  
あ。ま。が。れ。ま。れ。神。の。心。を。う。ら。う。と。見。あ。ま。が。く。や

四 北條時頼

時頼為繁乃後。最明寺道宗とぞヤケ。法心乃人民守護の

震政ふく。み。な。の。目。代。の。横。運。に。あ。や。こ。或。は。毎。実。と。う。み。り  
て。い。ひ。ら。う。ら。に。た。く。或。は。見。有。乃。は。さ。ま。て。種。成。非。は。満。き。う。ら  
このや。お。ろ。の。う。ん。近。き。に。免。く。不。便。の。け。ご。な。り。人。と。さ。う。せ  
き。く。い。わ。せ。ど。其。人。又。人。ふ。ま。ひ。な。り。也。依。依。の。心。い。ご。さ。あ。ま。ひ。の  
私。曲。よ。む。く。れ。う。い。つ。て。る。る。と。あ。れ。ば。甲。斐。形。き。き。う。ら。う。あ。ま。が  
下。と。め。ぐ。り。て。見。さ。う。く。は。あ。の。の。ど。と。思。ひ。き。き。さ。う。ら。う。み。れ。あ。り  
が。さ。さ。よ。そ。の。さ。ゆ。は。法。心。の。神。乃。信。結。と。く。ま。人。を。れ。と。あ。る  
る。と。形。し。免。ぐ。り。あ。ら。う。て。謙。念。よ。ゆ。入。ら。さ。し。後。ろ。う。ら。う。く  
法。心。の。理。非。を。い。ご。ゆ。え。ん。ら。う。濟。ま。の。れ。る。と。の。い。す。な。ら。ま。う。れ。よ  
あ。ま。が。う。ら。う。ひ。ぬ。又。ま。き。を。ひ。た。ま。き。大。信。徳。あ。ら。ず。や。人。を。れ  
あ。ま。が。る。る。あ。ま。が。法。心。よ。さ。い。い。と。次

小條氏乃子先祖時政義時とよかぬ人ありしと九代まうく  
相續して免ぐきく世とおさめりて一ハキも春時時乃  
頼成なるべし。徳不祥又う川といはなり。はく時頼田圃の  
内小佐野の源左衛門あや乃茂栄が子あり。それを孫承  
あど乃うといひ物よ人忠うて免味よくあふ屋うよと傳  
なせるなり。實らある子あるにあは法法をめぐり乃止  
あをむらう小忍うて。年屋々謙倉よりしき之後いつ  
とれくよ免をばうし。あし免をばうしき屋うよせうる屋し。  
その時ハその人々何ゆゑよは貴得よあふよと志る事なきなり。  
是天下古今無類乃伝徳なり。時頼子成あはくして。我  
しそり孫傳乃者よ梅橋を火りたきよはうりよ。梅田梅井

せ屋るぞなごいしれくくバ時頼よせいあるすじ記なり。  
む又伝徳とすりよをたごぞ。人をれこをを志る也

五 青砥左衛門藤綱

茂綱と謙倉小條家天下の政とあり。報光寺最勝園寺  
二代の相州よはくく。も成さる人。也不領も教十ヶはあて  
その家ゆさなりくれとごう。衣裳食餌より。居宅調ふ  
いさるまごくハ。さのめあ。儉約を引ひていさくも奢ることなく。  
主君乃事とあれむ。いづりては金銀百子弟をばはる。あふ  
きくくく。いを接るご。う。あ。く。その成えてはあす  
衣食をほご。を國乃訴訟人。能食よ。謙倉。道留し  
く。きりあど。さ。い。べ。う。乃。分。際。ふ。志。く。ひ。く。米。積。納。奉。を

ぞあつてくるある時地不許りる士沙汰をこふ命死をありて  
 公儀は出々候ふその沙汰外はあひ手へ形く事相摸也  
 重に對變をこふ子に成り候れば法入り候士のいふをせは  
 非を形く僻りまたし守教乃は法と評定しあて候  
 成有綱控成ももおそれ理非をあつてありやたて守  
 殿乃をこほ帝に定め候る候士不慮は公更ふりて  
 不常安堵しり候れば國小くしんとするに大乃後継は  
 恩をこし報しり候とて無欲第一後継あれば詞い  
 いとほを我を二百貫儀はかつて後継が家乃り候の山  
 あり候そふ坪は固へころなり今ぞ國は海に候る後継は  
 を見候て也の士が志とさなりと考りてせればうちりひく

いふ候候るハ沙汰の理非と理非乃まに申けりハ相摸  
 候とに候ひなる候也すつ考り候れせむふあり候  
 とも候るは君乃許悪名と申す候れば相摸候より  
 候と候るはとびとあまふ候る候は色がすまひはあは  
 候り候儀形は候た一候をて用ひて遠き田舎まで持  
 てるをせて道しり候れば外の首領をて大平記は詳也  
 今の人乃り物候候と申す二種あり名めは先と後世の  
 候となり名候はあまふ候り候り候なり後世はあ  
 には候も死後乃安樂とむさがる候りあせは是も欲  
 候る候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り  
 候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り



陽  
陽  
傳

十一

こはあをを仁心とす。むくもあはれは仁人とせよ  
海もあり。友徳をにちうか乃士を公にせしむるハ  
友綱がらんまゝ直とするとのこたもよべられど。人か  
ふろこびをかきりてなむ。又仁なりすや

六 南都急僧

い川忠ありや南都にむろりの悪僧あり。幼少より学  
文いせで腕どての好まなり。年々をく後ふと思ひより  
て。悪業をむるがうして。善業をかんとすれど。りともり文のう  
あく出家のまべさるもとて大なるあはれど。ごが持あをせしむ  
統どてよて善業をふさむやとあひく。そのころ世乃人の患  
とれる強盗どもは宿にむろりて。我も強盗せんとも云強

盗ども目づろそ強力をいありぬ。うちよりびく同敷と為  
せり。さて人乃とと強盗する時。この僧あはれ一人に記す。み  
ぬをみよ精を出しぬりあくそや。その家に入て。家の内は  
よいこ人をあぐ。おのれをのうをかくさせ。いづもあやまのら  
す海ごさやうに志すめて後ぬを人とをいせたり。是も依て  
強盗にあはる家。これさせる災難なり。又強盗どもはぬをさる  
物成りける時。ば僧と折ふ。入用なり。あつ者とをたの。利  
あふん時中。あつとていさう。おのれをもさる。昔の善人乃  
災難をすくひく。まんとのこたも。あるお強盗と出て。  
あそこかひく。おのれの人こよか。めさる。れより。おのれ  
法師なり。いさか。ば法師乃身よ。強盗とす。うと向られ。



物のほかに仕はとこふ。びくびくといきてはたあぐ。答なり。  
はまどととなつたる所やあまをん。どうも心忠肉の誠を一年  
むとせめられ。屋むとをえびして終よひ出たるやう。我は  
りと南越の悪僧を侍りし。が。ちう死るる後世乃罪業もあそ  
ろくあり侍りて。長業を修せんとす。と一文不通の身ふ  
はた。修を修せざる。と志す。世に強盗は。つづふ人を。こぼ  
る。こぼくの。村。実を。このすむ。海に。見る。ふ。こ。こ。け。賊。難を  
まらひたをきんとするよ。一人までかまが。多勢。敵。こ。こ。れ。は。  
久しそ其黨に入。め。くれを。あ。ご。む。き。これ。を。き。は。る。る。の。り  
どを。免。ぐ。と。い。つ。ると。云。な。は。感。と。て。ゆる。に。たり。沙。石。集。ふ  
ん。え。たり

六 強盗外を強盗して内は慈恵なりといふとも強盗乃  
名はうりあせうく。強盗は。つ。ご。あ。る。福。は。う。や。ま。く。い。あ。る。は。  
き。と。世。に。人。外。を。長。人。の。内。ふ。そ。こ。の。念。の。に  
た。ら。う。べ。は。い。む

(七) 原中宿女

むう。奥州より。利ありて。系。よ。に。お。り。人。後。河。の。玉。系。中。宿。女。  
て。中。む。と。あ。め。黄金。又。十。あ。入。る。袋。を。並。り。と。れ。く。出。り。て。  
系。川。の。小。お。ま。て。た。ひ。ひ。出。た。れ。ど。さ。く。も。や。人。外。物。に。し。を。成。へ。ま。を。  
そ。の。く。と。あ。う。と。益。を。死。り。と。め。小。日。を。屋。ん。の。り。や。と。あ。み。や。ぐ。に。は。  
ま。あ。み。く。系。り。に。お。り。用。り。う。の。屋。う。に。そ。の。の。へ。る。國。ふ。り。の  
と。て。う。系。中。乃。宿。女。と。て。金。う。し。あ。へ。る。家。を。見。ひ。ま。こ。こ。と

こそ覚ゆれと下人とうちひてさりたるを。その家よりけ  
女乃出く。何る成おほせらむとそ。旅人れ上糸のどは  
屋どにやすくて物を並けられらるる中なりとこ。女  
いある物を並けられせたまふ。うけあがりて。そ  
旅人立を揃りて。しあひる金あり。女は。女は。と  
軍うそ物。そらうい。つきて。こり。並け。ま。い。せ。は。と。人。と。内。ふ  
入。と。ま。た。旅。人。揃。り。ま。て。ま。あ。出。く。と。う。せ。り。り。旅。人。を。ひ  
乃外あま。ま。た。い。の。云。葉。も。形。く。て。居。る。が。は。く。是。い。う。せ。ら  
そのは。成。く。揃。り。ゆ。ば。せ。あ。て。い。是。を。と。ま。い。せ。く。そ  
といひて。ろ。金。十。両。の。ち。あ。る。れ。ば。十。両。ほ。く。い。五。十。両。な  
が。う。そ。ひ。ま。い。こ。う。と。ほ。く。と。い。ひ。く。目。を。さ。ふ

ふれど。旅人そ。い。ある。人。あ。り。た。し。揃。り。と。こ。へ。杖。を  
り。と。糸。結。の。ま。て。付。る。が。あ。り。此。の。み。か。う。せ。く。身。の  
よ。る。べ。好。き。揃。り。ゆ。の。ま。よ。つ。て。あ。り。よ。い。下。を。て。付。る。な。り。と  
い。は。り。こ。う。い。是。も。沙。石。集。み。見。え。こ。り  
富。く。上。よ。物。成。む。さ。る。い。さ。り。あ。て。下。品。の。人。也。大。く。こ。い  
と。め。ば。此。の。こ。む。さ。り。は。多。く。な。れ。ど。あ。り。ば。む。さ。ほ。る。是  
こ。ご。揃。り。る。人。情。な。る。よ。こ。の。糸。結。女。志。く。こ。者。之。れ  
う。せ。く。身。の。よ。る。べ。好。き。ま。に。糸。より。た。る。ぐ。と。強。い。も  
圃。中。の。好。揃。り。ひ。来。ぬ。也。は。その。ま。づ。け。は。こ。う。り。あ。る。者。  
あ。の。る。に。み。十。両。の。金。を。見。る。り。一。毛。より。こ。う。り。い。ん。の  
い。さ。だ。よ。ま。さ。を。ば。天。地。神。ぬ。い。ぞ。あ。を。れ。と。見。あ。い。は。ら。む。

これを以て女後より兩領ある人の妻とあり。心をさく世を  
すじくと人本書に在る世に世のまづりた女人を以て  
志す也。心さく世ありあつた名。財宝中とあり。う  
祿と物にひたり。さるはあふひの家は災難あるは  
神のそけい貪欲とあり。悔せありいふ事あれ。うらむべき  
人よあはれとある也。

八 古田大膳大史

大膳大史は古田兵部少輔孫舍弟と小身乃人あり。が長  
その年玄祐とあり。時子長とあり。ふ二葉のありけ  
大膳は上より玄祐の一派をたけさる。大膳は富貴の  
身とあり。年月さるる内は玄祐の妻子成長して

又玄祐と号は元祐六年大膳家督を継乃玄祐と返り中  
と再上とあり。上より玄祐の一派をたけさる。大膳は富貴の  
財宝器物を一切をたけせ。とあり。玄祐へへ  
あつて。いさへ俄より小身となり。小身に今すめれり  
なり。是をさる人あり。とあり。大膳年久しく富貴に居て。  
豪華いさめ川。とあり。在るに隠居して安樂に世に  
らん。あはれをさる。玄祐はゆづるなり。とあり。志すは  
さる。あつて。きめく。うらむ。身許にて。実東にあり。て。公を  
らむ。なり。心ある人。これを感せ。と云ふ。妻細と大膳記り  
見え。とあり。

安さ小屋をんずれども能うるといふ事。聖經よ見せり。此  
身七心も中を地獄ありとて之義有りたれりある海。こ  
まると志せばよく捨つる事となり。志す事ども凡すの  
義をかきせよ海ゆゑにうらむ事時もつりえき世よ  
幼少の娘乃知りてわづらひて。海へ入る人あり。是やう  
へ時つりえぬ人ある義も形にたなり。あつと車狭  
なり。大猪の志の海よりうはせり。又大猪を海へ隠  
居して安んにおんこめ小。も中知りて去る。あつと世の人  
能くし。これ凡情なり大猪の貧富若樂よむか。むか  
海へはめて冥途よあはれ。これ君子乃行たる海。  
是とてえまひびどとも幼少の娘乃家をあぐる人その

久世をこの時之をいふか。大猪を法とせり。こもや

九 勢州川田氏

實承乃らりよや。伊勢に業名の城主は清の。下賤の士よ  
川田の何が。といふ事。あつと。ある日。おの浦。色よ出さ  
あそぶとて金に入る。後むとつせむらひえり。あつと。いふ。お  
ん。う。かひ。清と志む。き。み。見。れ。ど。目。れ。ぬ。せ。ん  
う。お。か。み。ち。て。海。を。あ。き。の。目。又。お。て。見。る。に。お。り。乃。音  
目。行。に。お。す。て。物。た。も。あ。海。也。川。田。も。あ。つ。て。何。と  
あ。つ。た。お。み。る。も。や。と。目。も。み。あ。ひ。も。え。ん。は  
ら。く。あ。つ。て。い。ち。我。の。國。東。より。官。を。あ。つ。て。あ。小。系。よ。の。る  
目。も。也。お。松。より。あ。つ。て。死。ぶ。その。料。は。金。も。い。ひ。は。る。

あれからねが来るとゆのれだ。又國をさうらさば。共け海を  
身をまづめんとお小をのりよはといふ川田まで金銀の  
ありさゆをさよよ目々物ようぐひほほとて袋とり  
お一毎目々よ返一あふふたり。目々よろこびよこを  
金三分の一を川田にたつて洞をかじく。神謝を川田これ  
うげぞ目々をさすうをあひてよと院あせど。川田を  
以まげせんこおくて目々い系ふたがり。官途ゆえお  
ひく後おちよ紀州守野山にのほり。大船の石橋をたて  
川田史婦が祝南二世乃安樂を祈て。それよりぞ必よ海  
々とあへ植木交産くる

おち物をむらひてそぬいよきさゆを。とゆら。よもい

に記若根と。その人か。後よあるせり。我朝西を川田が  
ごまごまのまきうれせふこりつと。おまど。そむゆそれお  
似られ。おちいさ。川田と系中宿乃女と成る。外い  
そとをさつる。一

(十) 不破民部

民部は濃州南宮の神祇たり。神道ふゆらうあ。祈禱は靈  
験あり。一とせは戸よ下。そ大家のあせが神をさす。せ  
ぶらり。に住たり。ある時。むらり。清まぐと。こをう。居たり。こ  
りの兒女。乃。入来。く。いひ。なる。我。この。内。一。は。る。女。たり。こ  
く。る。に。才。き。あ。ら。ば。ま。う。成。て。は。是。を。上。に。ま。は。は。い  
す。は。我。才。い。ふ。よ。あ。は。よ。ぶ。あ。ひ。なる。男。も。う。あ。ら。ば。教。え。し。



子とありせし三人の心もちとすしひめとありし民を以て  
たは重罪なり。心の力ありてさしひえんやと以てた。女  
それといとをすといひ。はふされぬやとや。女はうけつがひを  
うこの子なりといひ。つごひのあすのさるる處と民部  
をゆるしぬと称し申素ねり。

不敵が事つをたうとる大家はあくとをて名と利と  
せう一あひのさるるは。きく人ごとい中は色國を海り  
えまが死ねどの恥辱なり。あつるふいそ実をあら。我方を  
ころく人といはれ也。きくひる死慈悲んあすや。ある人曰  
不敵はのるはゆるして。淫乱不義は名をうる。送體を機  
してをづり。若くは父母はあはれとたり。これ人のすべり。

わが我こそふりた屋より以て誠よ志のぞ。あうれどを身を  
忘せて人をあわれむれ又あうるは。そのう人無実の終ふは  
ちる物なり。その時を布て徳さう。たとふたはれはとも  
我の肉よ私とてころるるべし。あはれはさうくはまむ

(十一) 橋本松齋

松高は加茂氏肥後の必領せし。ころ國はあつる。あはれ  
せし。稲生の傍が子なり。寛永九年はうりや。國を  
國主あがれさせあひくより。松高はをさうね。そのころは年  
十三あつるとぞ。志むりハ津の必難波より住居し。それ  
より系はあつりて。暖海はあつるにあをさうとや。父は  
いのりどうせし。あはれ。その身年さけぬれど妻をも心の

へど子もそらば。りとの名を何とらひひきん。りとどり切くそは  
姓名を橋本松秋恵叔とあらしめ。おのりも。慈悲心をおこ  
して救済を成とせり。世乃まづくしてうへをゆび人を足て  
うへをさしきとけの守。たきけすくんとたもよ志あるの  
後を太秦。廣隆寺にこり。又福りすこり。その救済はあり  
さ梅をつく。さゆふ。おのり財宝を家神。まづ。年とにその  
時ありて。麦米小米。おのり買わ川先。とぬ。とい物を糶粒  
よ法なりて。し。さ。並て年の饑饉。せ。成。は。く。と。く。に  
あ。さ。織。種。あ。で。と。阿。さ。夕。乃。さ。り。者。そ。う。ぬ。る。人。お。り。ら。其  
ほ。ど。く。よ。よ。ひ。と。糶。粒。と。を。た。り。に。り。又。太。秦。よ。住。む。る。民  
耕。作。の。い。と。梅。り。い。づ。つ。小。居。る。成。足。て。い。う。あ。り。ぞ。繩。と。あ。せ。く

い。の。糶。より。あ。き。う。き。い。が。繩。な。ひ。く。い。か。さ。ゆ。え。ん。と。す。れ。ぞ。  
いと梅をぬりて。ら。う。お。繩。を。出。し。直。を。屋。に。して。う。り。あ。ら。ふ。  
又。濃。お。り。買。り。と。めて。紙。を。そ。め。里。乃。女。の。年。老。く。田。う。ら。も。も  
え。せ。ぶ。お。と。あ。め。く。物。を。を。糶。と。せ。て。う。お。幣。を。紙。ぶ。ぬ。よ  
ぬ。と。せ。た。ら。く。り。と。並。て。寄。り。あ。ら。夜。あ。き。と。の。よ。は。つ。ふ。け。外  
乞。食。お。ど。よ。日。ご。に。糶。を。ほ。ど。と。は。ず。又。す。く。か。う。さ。は。は。あ。れ。松  
高。何。む。の。り。の。材。宝。あり。て。く。年。久。く。人。を。賑。を。ぞ。と。も。ふ。り。と  
より。材。宝。お。り。た。い。あ。守。我。乃。用。度。さ。り。あ。く。う。は。い。い。は。  
う。お。は。あ。え。を。と。か。さ。ば。さ。人。の。さ。め。ふ。の。と。用。さ。が。ゆ。急。な。り。  
考。へ。た。松。秋。が。家。お。め。け。り。竹。の。林。さ。う。卯。月。又。月。乃。た。ふ。る。多  
さ。時。来。より。ゆ。と。て。た。ふ。な。く。お。り。と。い。ふ。人。お。き。ば。そ。う。人。の。こ



りてありてさうさうに竹と折る用をそまふ。若し食事を  
あつびよ夜裏のうらさき中先とらしてあてあさる。蘇よあま  
るる金銀はこれとめる人のりにあづかしてその息とく富る  
人と心あまは松高があひるる金銀とあれはそ息とあつまは  
るくながめばげくこひさとりた。ある人いふ松林  
金銀乃息とるはあまふさかた。これが日後の無欲  
よ似ごと松林これと聞くはひてひて我まが死のり  
すらふをありて富る人はあつるをさる。けある人  
うらうる息はゆるせよせ。何れからてう貧しきものを  
さるりと。先松林が材室乃年久しく人をとくはきさば  
いふれ也。松林年七十元禄元年さつきの申す三日病より終

言ふ太秦よりてありとりぬ。そ終るなり乃人の考ひ悲しむ  
ざるハ形

惻然乃心人終りと也。是なれば人はあはは。考のれと世の  
今とにわがけさうよあわめてう終りる心とを終る  
うあまなひ終るに松高はけをさうか。終る人をあれ  
めるる本文のど。仁よあらずや。そのがまよあまを死を  
りためはせさる。賑海とつとむ義よあらずや。或はまを  
ありて一旦めどこれと世といふ。その材をさうあまは久し  
び一室をむとある。松林財乃つさばるるをありてそ  
法を法くぬき。いあるの終り。終るよとが。このうは  
智よあはばや。賢くあぬ人は物して息をくりてあふ

後書

三十一

乞とらりあぢうくもゆるはぢど直<sup>ちやう</sup>まあすや。これより  
く是をたこふは後世<sup>こうせい</sup>よハむえぐ<sup>むえ</sup>ん人あり。ゆめハハ  
ありやあらずや

(十二) 王義方 乞より唐土乃郎

王義方ハ涪州<sup>ほうしゅう</sup>人として学問<sup>がくもん</sup>を語<sup>かた</sup>。上よりめされて京<sup>きやう</sup>にのりて。  
及<sup>およ</sup>ぶくわの死<sup>し</sup>男<sup>おとこ</sup>の流<sup>なが</sup>歩<sup>ほ</sup>まを<sup>ま</sup>行<sup>ゆ</sup>あや<sup>あ</sup>るを<sup>を</sup>見<sup>み</sup>く。い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>形<sup>かたち</sup>人<sup>ひと</sup>がと  
同<sup>おな</sup>くればこが父<sup>ちち</sup>顔<sup>かほ</sup>上<sup>うへ</sup>といふことありて病<sup>やまひ</sup>た<sup>ま</sup>。ま<sup>ま</sup>好<sup>この</sup>ま<sup>ま</sup>むむく  
とてよ<sup>よ</sup>海<sup>うみ</sup>を<sup>を</sup>道<sup>みち</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>海<sup>うみ</sup>の<sup>の</sup>道<sup>みち</sup>を<sup>を</sup>今<sup>いま</sup>一<sup>ひと</sup>旦<sup>とん</sup>も<sup>も</sup>ひ<sup>ひ</sup>れ<sup>れ</sup>侍<sup>さむらひ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>  
り王<sup>わう</sup>義<sup>ぎ</sup>方<sup>ほう</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>我<sup>われ</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>馬<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>け<sup>け</sup>が<sup>が</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>  
い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>男<sup>おとこ</sup>乃<sup>の</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>け<sup>け</sup>が<sup>が</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
上<sup>うへ</sup>よりめされ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>唐<sup>たう</sup>土<sup>ど</sup>乃<sup>の</sup>郎<sup>らう</sup>の<sup>の</sup>名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>

死<sup>し</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>我<sup>われ</sup>ハ<sup>ハ</sup>流<sup>なが</sup>歩<sup>ほ</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>き<sup>き</sup>ハ<sup>ハ</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
が<sup>が</sup>死<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>。名<sup>な</sup>乃<sup>の</sup>と<sup>と</sup>死<sup>し</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>流<sup>なが</sup>歩<sup>ほ</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>き<sup>き</sup>ハ<sup>ハ</sup>む<sup>む</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ハ<sup>ハ</sup>その<sup>その</sup>姓<sup>せい</sup>名<sup>めい</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ず<sup>ず</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>  
心<sup>こころ</sup>形<sup>かたち</sup>の<sup>の</sup>あり<sup>あり</sup>。あり<sup>あり</sup>が<sup>が</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>仁<sup>にん</sup>者<sup>しや</sup>なり

(十三) 閼<sup>くわつ</sup>敵<sup>てき</sup>

閼<sup>くわつ</sup>敵<sup>てき</sup>ハ<sup>ハ</sup>汝<sup>に</sup>南<sup>なん</sup>平<sup>へい</sup>雲<sup>うん</sup>とい<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>乃<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>也<sup>なり</sup>。汝<sup>に</sup>南<sup>なん</sup>の<sup>の</sup>太<sup>たい</sup>守<sup>しゅ</sup>第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>。第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>系<sup>けい</sup>より<sup>より</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>れて<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>汝<sup>に</sup>南<sup>なん</sup>の<sup>の</sup>太<sup>たい</sup>守<sup>しゅ</sup>第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
百<sup>ひやく</sup>二<sup>に</sup>十<sup>じゆ</sup>万<sup>まん</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。閼<sup>くわつ</sup>敵<sup>てき</sup>ハ<sup>ハ</sup>汝<sup>に</sup>南<sup>なん</sup>の<sup>の</sup>太<sup>たい</sup>守<sup>しゅ</sup>第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>世<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>み<sup>み</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>れ<sup>れ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>通<sup>つう</sup>敵<sup>てき</sup>を<sup>を</sup>な<sup>な</sup>り<sup>り</sup>が<sup>が</sup>こ<sup>こ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>ん<sup>ん</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>  
ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>内<sup>うち</sup>小<sup>せう</sup>閼<sup>くわつ</sup>敵<sup>てき</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>系<sup>けい</sup>より<sup>より</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>れて<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>汝<sup>に</sup>南<sup>なん</sup>の<sup>の</sup>太<sup>たい</sup>守<sup>しゅ</sup>第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
妻<sup>つま</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>系<sup>けい</sup>より<sup>より</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>れて<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>汝<sup>に</sup>南<sup>なん</sup>の<sup>の</sup>太<sup>たい</sup>守<sup>しゅ</sup>第<sup>だい</sup>五<sup>ご</sup>常<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>

う(せ)あひ死て物あらんと死又はく(の)ひ(を)たすう(と)し(せ)ぬ。國(を)お  
さう(は)らむ(は)け(を)く(は)送(り)の(を)せん(と)い(ひ)く(ま)く(ま)く(ま)て(ふ)ふ  
う(づ)と(並)て(い)は(ら)う(ま)も(は)だ(れ)も(ふ)系(り)て(第)五(章)が(家)疫  
病(ひ)あ(ひ)く(ま)く(ま)る(り)第(一)章(は)今(は)死(り)死(に)九(章)形(は)  
孫(ま)ひ(ら)う(ま)く(は)い(で)何(ら)う(ま)も(は)ひ(く)我(れ)む(う)汝(ま)を(出)時(國)敵(を)  
云(ふ)ま(の)は(錢)三十(万)あ(ら)き(並)一(と)い(ひ)く(ま)る(り)ぬ(孫)成(人)孫(は)昔  
(は)是(て)せん(と)あ(ま)す(ま)に(汝)南(へ)君(ゆ)き(ま)る(り)國(敵)出(あ)ひ(て)大(に)  
(ま)り(び)さ(海)く(う)も(て)な(り)終(ふ)の(錢)う(づ)も(あ)き(は)西(へ)く(り)  
(り)て(は)海(と)も(出)出(し)も(く)く(と)れ(ふ)お(ま)に(り)孫(ま)の(錢)乃(殺)を  
(ま)て(は)の(祖)父(の)い(ひ)お(ま)る(り)三十(万)錢(な)り(今)百(二十)万(と)き(く)ら  
(大)に(は)死(り)る(り)え(う)そ(う)け(ま)す(け)き(と)い(は)國(敵)の(か)そ(れ)第(一)章

又(は)ど(の)病(を)し(は)に(は)い(お)や(ま)あ(ま)る(る)應(し)海(と)と(百  
三十(万)が(と)一(錢)之(の)こ(ろ)だ(ら)あ(ら)て(は)死(せ)に(ま)る(り)  
人(は)心(を)我(を)れ(と)く(と)し(と)既(し)仇(を)ふ(の)ぞ(こ)ぬ(ま)は(は)こ(り)  
心(を)く(は)ら(は)い(海)を(之)國(敵)が(妻)う(ま)り(り)多(く)時(あ)つ(り)の(錢)を(て  
急(を)す(す)ひ(て)物(を)あ(ら)んと(死)け(く)の(ひ)か(ん)と(い)ひ(り)と(む)さ(り)ふ(い)あ  
ら(は)ぬ。ま(う)れ(ど)と(妻)が(思)案(へ)考(れ)も(あ)る(と)な(り)國(敵)が(海)を(り  
(り)る(り)人(の)ね(ら)び(が)死(に)あ(り)ま(れ)と(は)は(は)孫(を)第(五)章(が)三十(万  
(と)送(ら)せ(り)る(り)三十(万)の(外)の(國)敵(は)え(さ)せ(き)く(や)れ(と)ひ(ら)ん(孫  
(を)退(し)て(も)く(う)を(ま)す(と)き(と)な(り)あ(ら)り(か)き(は)す(あ)ら(ら  
(ひ)の(ち)も(孫(ま)を(一(錢)も(と)め(は)は)す(と)も(く(は)い(は)死(き  
(ん)ご(う)ふ(と)あ(り)ま(れ

十四 姚氏

姚氏は吳興孫乗公湫とひよとの妻なり。男子嫫有りまきく  
公湫は死ぬ。公湫の兒と死し。兒中も男子ひ有りありて母を  
か。姚氏は泣きよくやせめ成を。とが子と夫は兒の子とあるは  
めもたなくととあきくすど小成へくれば田地をうりてはひえと  
して。夫乃兒の子に妻をぬらせ我をといがやう。女子と夫を  
出くちの兒あり小宿うりて居るるとと

女乃ひをけくうからなり。よあつひ子女をけ姚氏が場おきたる。  
さいし家の内へははゆたれたが。我子をあるドめつせくたひ  
愈さど。家宗領形をたや。夫乃兒の子ふあ成とて。我  
とる。とが嫫有り。女子と夫をけつて。我をいげぬ。その家を出

十五 駱公緒

公緒は吳人なり。八歳有りありる。國中太に穢謹せり。  
公緒うち色へるあり。と海を物をもつひ中うふんを。其婦  
あれをのれみく。公緒より多とさ。今年の穢謹と中うんて。  
れとねぐよ。食をう。はこれか。ねく。て食にあく。愈さる。種な。さ  
ゆ多ふんり。海をて。食せ。とい。婦さ。て。嫫有り。感と。そ。其。あ。だ  
とて。とが私のよ。ひ。あ。と。と。公緒よ。と。せ。く。人。り。け。ち  
あ。と。め。り。公緒太。さ。ふ。あり。と。び。て。それ。う。後。の。好。乃。食。を  
は。ひ。た。を。う。と。ぞ。ひ。ひ。の。公緒。と。父。い。う。せ。く。母。と。継。母。と。り。ん。と。り。  
継母又公緒が。ひ。と。感。と。て。後。の。ひ。と。その。里。人。り。絶。く。る。と。と。ぞ

年たひあられあまる人といふほど。人食のきつぬをみて我の  
物をあくまぐく小せざるはまれ也。公結ぶるに八家結小思うて。  
うは心のほろろるは思ひに不思議乃仁者なり。はるば  
らの朝也。仁徳天皇結供済まざらばはるばるめたま  
るは。延喜のみうど一條院乃さむき教済夜せうすめあひはる  
ごと。これぬる兒ふも小見くはる。かもやまをとたう兒も中さも  
急悲結たむらうはる。そある我を結いぞ我をばうをいんや

十六 劉凝之

劉凝之は宋乃衡陽王結うらるなり。一とせその小大さ小飢僅も凝之  
つ子にまぐくうつむむ。王その食乃きうばんも成りて。錢十万をたうれ  
り。凝之よりこび即時うそ結せ小せりこせり。市よ出く。うらる者成

見く。これせいのらあるへるやうにすく。結小結つて。こが身乃  
負らりて結せり

貧者物をえてらまづけの教せうはり。そあまうて。人よほど  
こせべーとねもいあたり。我が身をけとせめてこく。余結ら  
平人の目よ思癒あるやうあきと。賢者の心か。くせられやま  
う。天北神ぬりよりこびあまをら。又こふありとあるべー

十七 楊震

後漢乃楊震は東萊と云とら。の守護なり。ち護西よはと昌邑  
といふ所にさうりたれた。先年楊震上へ申て。公又いご。今昌邑の  
なめとなりたる王密といふ人。教よ今金十斤をぬとらふ入奉りて  
揚震より申す。楊震よあこびば。といふ。我を其方結人のや成

ありしれども其方我を著しむ。けしされどもよりよふ處なる者なり。王密きて我中あまひあるもの如し。たゞくけさせたまふ。揚震うちいひく。四の志あるはあを天あり。神あり。我あり。かんぢある。いぞあるの如し。とていふや。王密ぬく。私く金せめてあげけりぬ。

天と神との人乃若惡を著りたまふ。陰むかひけり。いうある。絶戸帳肉結。人ゆるぬあよりいふ。天乃はまるとのゆるぬ所なく。神め乃は耳のいふぬ方もけり。是いまむるはあまひあり。こほやういふ。人かむる一念くときば。いふも。形もあつたれぬ。天地神めあやめさばといふ。か。けしむるをさする。今くかくせりとたりぬ。特場乃

維のうらそ系に入る。記よりあつる。成る。人乃心の理。今日天地神め。揚震と王密がんにあつる。とたりぬ。いふ。すなをらけり。王密の如し。我中密のいふある。らきて。子年におす。雷義

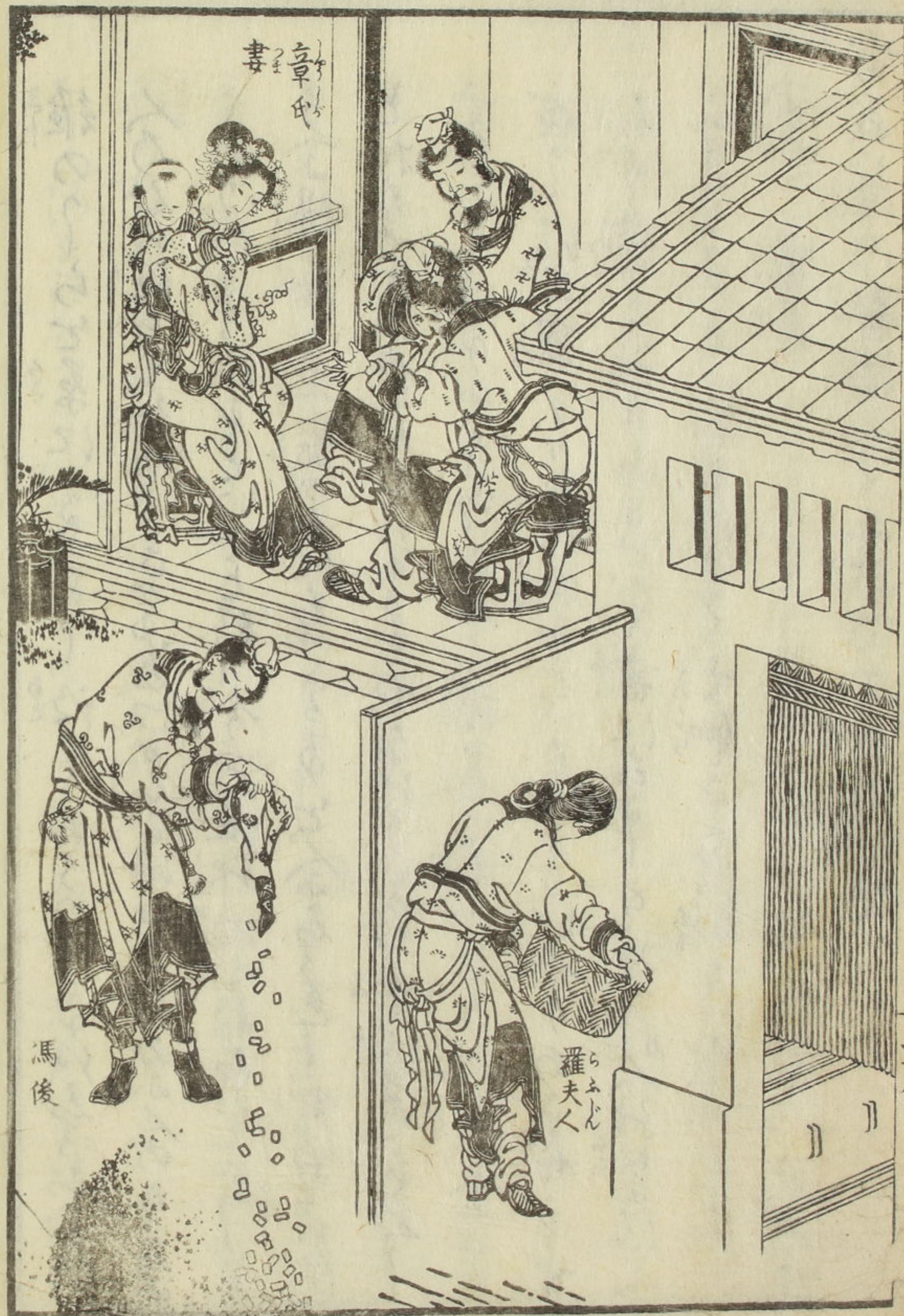
(十八) 雷義

雷義ハ漢乃鄱陽といふ所なり。そのは乃成さなく。後考とな



馮高

二七



羅夫人

二八

まり。ある時死罪小あしを死たものを雷我力をはくして。その罪小  
あしをゆるす。然とつりて命をたせけり。罪人ふらふ。小あしを金  
二斤と持系して礼をいし。雷我命をうけ。罪人のあしをゆるす。も  
も。いし。む。か。あ。く。雷我命をゆるす。ゆるす。ひ。彼命を  
持ゆ。て。を。そ  
く。家乃を存ふ。死たものとて。け。命をたせけり。雷我の罪人乃  
あしをゆるす。成。知。く。く。た。く。あ。む。その。は。い。ち。や。罪人のあし。子  
ねども。あ。し。と。け。れ。ん。ん。く。く。死。た。罪人乃。任。る。里の。有。り。の。こ。こ  
送。り。多。は。と。ぞ

賢人のいふ。ふ。死。す。て。それ。と。その。命。恩。と。あ。む。と。さ。さ。さ。入。り。也。  
雷我。い。そ。う。命。と。う。き。ん。年。人。の。い。ふ。ふ。死。す。て。その。人。を。れ。を

恩とおもひ。ひ。び。ひ。く。は。る。ん。ま。る。が。あ。む。物。と。お。れ。が。あ。む。は。う。く。  
あ。く。れ。け。ち。う。き。ほ。ぐ。き。物。と。う。く。れ。ば。天。地。神。の。陰。より。それ。を。れ  
返。した。ま。ふ。り。あ。む。成。あ。む。次

十九 公儀休

公儀休は魯國乃。家老。あ。く。民を。あ。む。む。む。ふ。り。は。る。時。野。菜。を。食  
く。味。ま。の。を。と。れ。た。け。野。菜。い。れ。こ。より。え。る。と。下。人。よ。と。ひ。又。家。乃  
菜園。よ。ひ。と。こ。こ。公。儀。休。す。る。ら。下。級。よ。ひ。つ。き。て。と。く。菜園。を  
む。さ。す。と。さ。せ。り。又。あ。る。時。家。を。て。織。り。と。い。ひ。績。成。の。よ。死。を。ん。く。  
す。る。ら。ち。その。織。る。女。を。追。出。せ。り。け。あ。る。何。ゆ。ゑ。ぞ。と。い。ふ。又。を。と。く  
民。と。利。を。あ。く。そ。ま。ま。り。記。が。あ。也。利。を。あ。く。そ。ま。と。いた。と。い。ひ。野。菜。を。他  
王。脩。布。を。た。り。出。ま。の。百。姓。町。人。乃。の。び。な。り。禄。を。と。る。な。公。人。の。禄。乃



内をものく百姓町人の手前より先を買とりて用ひゆ多し。百姓町人その利をえく世とてくると。志のふしは福をこる家小菜園あり機織あり。百姓町人のほりや。おし出せる野菜絹布をた。たきの人の買度子。し色を百姓町人の利をうしあひく。福をと家。家利をうしぬ。先を民と利をわすをいふなり。公儀体の己が園菜をむすすてさせ。かり姫をむひ出され。民おためては。はとにぬるれ。おみなり。仁者よ何らぞや。

可いめてうらる官人と。家園織婦ありと。も害すくあうべし。その國は大臣これをせ。一城の徳士これ見たり。ひて先をすま。民乃衰微うし。ひか。公儀体と魯乃大臣あま。急よあ。くあたる也。國は家のく。大なる長行なり。かよそ人のくあ。

よ紀とするに小阿り大あり。人のきふたち人けり。いとなる人と。一人乃あささき。万人のよろこびをなやう。いとをるなり。け。公儀体が。おれ大なり。下に居て身い。一人。さ。のひよ一人乃。くあ。おれ。す。これ小なり。その内。お。く。の。人。の。り。は。操。は。く。お。れ。じ。米。う。る。もの。飢。饉。よ。あ。ひ。て。あ。さ。ひ。と。む。さ。が。う。さ。の。さ。ひ。と。小。乃。中。の。大。あり。小。に。必。天。乃。多。く。み。よ。あ。ふ。い。と。ん。や。大。と。や。

(二十) 駙馬共

附る共と。荆乃國は。士あ。り。が。巴。といふ。使。よ。ゆ。く。と。て。及。き。物。を。あ。ひ。て。る。もの。成。る。物。と。大。毒。乃。鳥。なり。その。羽。あ。ら。う。や。て。も。人。ぶ。ひ。或。は。死。を。附。る。共。と。て。先。は。何。の。く。あ。何。方。

めちゆくぞとて。人々毒ふまのふうらん。えたりといふ。  
 附る共さうて。うれけ物を賣めぐまう。おろくは人をさかえん  
 る。或る所。と思ひなれば。その糖もく。我うんといひて。めちゆく  
 金。のさう。糖のぬ。よあさくれども。な。或直に。さ。糖と云。附る  
 共。その。毒。う。る。車。よ。で。て。糖。を。買。え。く。す。ま。ら。さ。こ  
 ね。る。江。乃。水。の。さ。こ。に。さ。う。く。ま。の。さ。く。は。り。ぬ。

毒をうりて人を殺さんとす。そのあを。是。を。さ。う。く。て。人。を  
 ころさせ。と。ま。は。る。の。あ。け。若。お。の。む。ひ。い。て。は。ま。さ。う。ん。  
 は。ま。市。町。よ。て。物。を。あ。さ。め。も。これ。人。の。あ。よ。り。あ。い。さ。う。を  
 ち。う。り。て。た。あ。ぐ。く。人。は。益。あり。て。害。ある。の。或。あ。さ。た。り。あ。い。さ。う。  
 利。あ。り。く。え。ん。の。或。を。ひ。く。人。は。害。ある。物。を。あ。た。る。あ。い。さ。う。

この糖をう家のたぐひなり。終。よ。い。は。い。さ。う。く。べ。し。が。う。り  
 子。を。あ。つ。め。男。女。を。さ。う。は。を。い。ま。や。あ。い。博。奕。の。具。を。は。を。  
 淫。乱。の。は。し。し。を。開。板。し。子。あ。り。の。茶。を。賣。り。き。ぐ。ひ。さ。な。人。  
 害。ある。物。を。あ。さ。め。たり。む。う。く。ま。ら。さ。う。く。一。家。の。世。よ。白。牡丹。と  
 い。女。あり。て。子。を。か。ら。き。さ。う。く。う。り。が。後。小。子。を。う。り。て  
 死。する。と。悔。り。た。ま。を。め。り。さ。う。

(三十一) 王旦

王文正公名曰。宋の大臣なり。は。ひ。其。い。さ。う。を。見。る。人  
 有。し。百。つ。く。ひ。乃。ま。の。あ。や。ま。ち。を。や。ま。ち。を。や。ま。ち。を。や。ま。ち。を。や。ま。ち。  
 々。ある。時。候。を。ま。あ。る。の。肉。は。あ。つ。の。中。へ。あ。や。ま。ち。を。や。ま。ち。を。や。ま。ち。  
 を。入。り。せ。り。た。王。旦。を。見。る。と。飯。の。こ。ら。ひ。て。あ。つ。の。肉。は。あ。つ。

きば人々をわづらひてさげすみぬるべし。七日を肉を食ふこと  
あのみまじとたゞいひくやまきぬ。又ある時飯は雲乃つとす。す  
りりければ。七日飯すゆ。粥を煮て出さる。といひく。飯の雲乃  
けられざる。すまじとす。又王且乃子ら飯を食ふ時肉たつた。  
これ膳給が私とす。と刀をとりといひく。おのく後。そなたをけり。  
王且乃そあんち。一びよりおの肉をけり。とす。これけり。  
一行を食する。物とて。王且乃今より一行半。せよと  
あんいひて膳給よといふ。なり。

主人申して下人のむさるをせむ。おろよれ物なり。下人と  
あり。其せぬ。おろ。下人の心。成る。いづれ。とせり。  
刃持。とせり。さ。ひ羅あり。とせり。さ。ひ羅あり。とせり。さ。ひ羅あり。とせり。

其身はたがえぬ。さあやま。ちあ。い。と。と。が。め。あ。り。さ。れ。  
王且と。つ。つ。陣。と。す。無。一。慈。悲。ふ。さ。く。下。人。と。つ。つ。ハ  
人。の。お。ろ。ぬ。と。難。き。よ。の。ぞ。み。て。い。その。主。乃。死。に。う。る。も。お。ほ。  
慈。悲。い。ん。あ。る。さ。あ。る。と。れ。い。が。身。は。き。ま。け。なり。

二十二 張齊賢

張齊賢も大臣あり。初に小守あり。時。百。つ。つ。ひ。の。お。の。齊。賢  
乃。齊。小。實。害。あり。る。時。根。よ。て。は。さ。さ。る。器。を。ぬ。を。め。す。齊。賢。物  
の。む。ま。より。是。と。見。る。さ。れ。と。色。あ。る。は。り。も。出。され。と。年。毎。て  
大臣とあり。さ。し。る。舊。功。は。下。人。と。も。さ。る。た。ら。れ。よ。か。乃  
根。器。ぬ。を。め。る。か。の。こ。ろ。り。の。の。備。也。け。お。の。さ。ある。時。齊。賢。の。例  
ち。く。ま。い。く。洞。を。さ。ぎ。我。知。り。取。る。れ。ま。い。せ。ば。さ。る。成

恨多れを齊賢さればは汝むういづ報器ぬまじとあり。我二十年  
先をわすれず。今我天下結大臣としてまよ死をわきまどまらるを  
ありぞく。いそ汝をとりあむん。汝もど汝れなつうあると久し  
くれば。先をえさすると。いづ方をも持めてむせく居止とく。後  
子貴をぞこころされたる。

下人の目財宝をぬまこふ海をありて。二十年をれをわすれず。  
くまがうらむるゆあるにうて。是非わくその実をいひあはれ  
くれど。うまそ物おゆたびく。おせ出されけい誠よふ死仁愛  
あふぢや。うはむ乃人いそ言官ふいそ言さうん

(二十三) 王高

明の代乃正徳年中に王氏結あき人あり。徽州といふ所のものあり

一づつひの徽州といふところあり。せよひてあきあひしなり。先が親類  
の内小名雲乃相人あり。ある時王氏をんくうち教るは汝を年の  
うちよ難にあて死せよといふ。王氏くこの相人の人を相といそ  
くもきかばはるをありたり。くれおあうくつど。さば身はあまひを  
くそせめとて。徽州よゆきて財宝とりあてて。徽州よ海をふ  
折ぬしちとづれのはまそ川ふお出くうくさくれは旅屋ふつむぐ  
と目せんとて。文うす川のほとりよ立出てあがめ居るなり。この死  
女房の子をいそこころいづこよいとせぬ川乃海より小来て  
たすみなるが。あてあてあきなり。王氏にどうして折しと  
そのあより小するなり。乃舟おやうくれは。おきたをけしとて二十  
金とあきんとよまふ。まをせまじと先をさして。いそぎそ舟を

よせくし。おぎたるなり。母子とせよすくひなきなり。王氏  
 すまらちさふどらうごも小金をわさぬ。さて女あゆのやう成さへ  
 さいめて負し死家社妻あるが。まじとの影を飼て人ようりんと  
 云を。まなるその肉にうんとと云人ありて。うりこれ。そのうりあせ  
 がひあり。まうして是を見。いふうりうりて。おとむ。今これ  
 すぐて。死まへ。と思ひ。さう。身をあげ。いと。王氏いふ。あ  
 せよ。たれひ。銭あり。と。せて。まじ。う。ぬ。まじ。あ。あ  
 と。り。く。つ。王氏。一。礼。い。え。と。妻。と。も。ち。も。に。王氏。が。旅  
 宿。よ。い。さ。る。に。お。も。す。う。ち。ふ。け。ま。ま。王氏。い。や。い。孫。なり。戸  
 き。り。く。む。た。ま。を。ひ。つ。る。女。なり。とい。せ。た。れ。た。王氏。さ。う。く  
 考。と。ま。ぎ。し。て。ひ。の。き。女。社。教。よ。入。る。み。う。り。に。人。の。り。と。へ。る

りやある。あらでうなとぬりあは。お。い。き。て。ま。婦。の。ら。を。せ。り  
 ことこれといひ。紀もあがう。ま。乃。考。ゆ。ま。婦。これ。よ  
 對面。海。を。う。う。と。い。ひ。王氏。む。う。あ。れ。ど。あ。あ。く  
 紀。て。戸。を。ひ。き。出。さ。ら。た。き。い。海。を。く。ぬ。ら。あ。あ。び。し。く  
 なり。お。さ。ぬ。王氏。う。ま。み。を。た。尾。を。ぬ。り。こ。あ。は。儀。の。さ。め。て  
 あ。の。さ。が。長。ぬ。よう。さ。死。う。け。と。王氏。が。い。孫。を。う。り。家。を。去。よ  
 あり。お。う。づ。ぬ。り。け。い。ま。の。ま。婦。さ。う。り。て。對面。を。こ。い。ま。王氏  
 い。そ。死。を。た。の。と。ん。け。く。王氏。を。た。よ。海。う。の。視。勢。乃。相。人。あ。ひ  
 くれ。相。人。又。お。り。死。て。汝。の。面。乃。紋。う。り。う。り。齡。も。の。び。い。ま。ひ。も  
 う。く。海。一。何。事。社。居。根。を。う。り。は。と。と。い。ひ。王氏。あ。や。う。と。海。錢  
 ぞ。語。り。よ。る。王氏。それ。う。り。家。は。の。一。十。一。人。の。子。を。も。ち。て。年。九。十。六

あつかりつるごと

天のあつかりつるごと  
人とおもひて王氏が大難そのまゝ其急相とあつるは  
さのちひかたつるは成かたはうごまかすやうに  
旅宿あつて必死の地なう死すべし王氏が身をうの  
はと天にせむひく。せむくむくきすけさせあ  
人のあつるは及後死所あつむや。これをあほつるあ  
ふりさほどひなり

(二十四) 實禹鈞

禹鈞と危陽とのひとつる人あり。種く長河あり。中を其  
家持南にあつて学問をせむくたて。書籍教子巻をその

学文むろく行はれ人をして法と師とく。学小を法と  
あまどとすまたよりあま人を。とくく海の子を海の子  
あまくはとめさせり。是によりてよれ学者ありこの人あま  
よるはつり

一家一郷乃困窮をすくも減り。吾れあつるはあつるは  
はまどと事とせむくはり。学者乃よまの天下の政をたけ  
國土を安穩よるを。禹鈞が学を成中あり。とつるは  
のつととと大なり

(二十五) 瞿嗣興

嗣興と常熟といふところにて。年をとりて世成るる人  
見たり。その心さめて慈悲なり。機僅の年あつるは

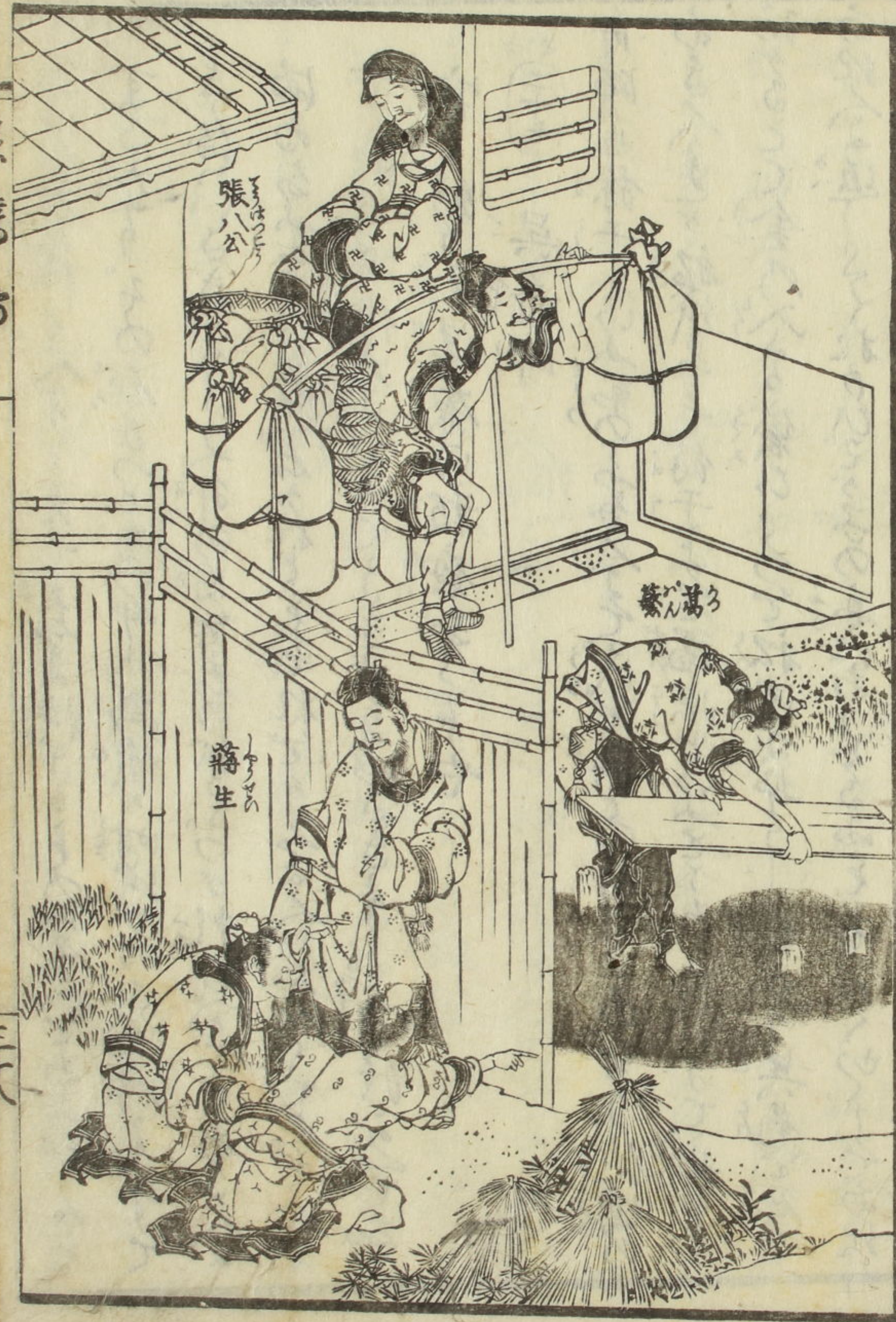
この後又百文のち来りて来せうひらり。嗣興その後を更らりて  
箱よたさめて志をうして。朱成を貴文が分るせき。又百文を  
貴文とたがちのりる。海よりてあしうへぬ。又まのりてあさ  
夕々事ごとくさうぬる。報あつて物をあさきくふ。時その報あ  
をさるはるる。窓より後をあき入る。それがあつてことあき  
けり。中うみぞしる。されば報いしとみて年八十はてありぬ。見  
前も論むるごとく賢者人よけ恩をさるる。成ありて  
されどくくさうふりてそ。それがその法徳ありて天地神の  
のめぐらせぬ。海たる也。

(二十六)

馮俊

此人在形より系へたがるとして百金をうりて去る。去るをうの備へ

持ゆき。系して賣て在系のはいえとせんと思ひくる。道ゆく  
そのうり物をことごとくかえんとし。そのあま。馮俊せりて賣て銀  
せうけし。うりて。そのけ報と見れば。あませ報なり。報は  
いとやうくわけさる。そのけ。馮俊す。さやうあて。せ  
是もそ人をあまゆ。とそ。その報とく。川へあけ入て。系へ  
より。ふら。在系の料。ゆをの。とほり。り。あ。あ。れ。も。そ。人  
より。う。れ。だ。終り。より。は。う。て。都。御。史。とい。官。ま。ぞ。あ。げ。ら。れ。る。  
その時馮俊が。下。につ。き。け。る。友。人。の。あ。ふ。り。書。を。四。挺。り。ち。あ。て。  
馮俊。よ。や。り。り。馮俊。す。り。り。あ。視。す。り。て。見。る。れ。ば。う。い。書。の。後。よ  
は。り。て。ま。ら。金。なり。馮俊。その。ま。い。あ。あ。り。る。成。あり。て。は。り。り。  
是。を。あ。て。て。と。ち。あ。あ。り。る。人。乃。面。よ。打。あ。せ。り。り。と。形。を。





あれは金銀を人よりえそきよは推せざるもの又人をあざむくと  
するなり。その心もいず。馮俊が時成うのさだ川にすて  
し海にいさぎ。又外の目をあびる。つがねむむるある人  
ゆああをほさば。志うれどもそれどう言ふかあて。そんを  
すくね。馮俊大はうりてうきす。又いさぎ。よは清のて英  
官とね。是清廉の報復ありや

(二十七) 吳舟師

舟師と餘子といふ所のあそんそ民を呉といひ。このあり。他國の  
あそんそが船成るを餘子よを揚洪といふ。ちよはうりて。あそり  
あがる。て金乃入ら。袋ひつを船中よ押す。魚ら。呉をなす  
あそんよ返す。これひ。さ子の舟にあり。るゆをあつ。のく。あれ

人あつ。とめに。来る。そは。多。子。は。是。を。あ。て。を。や。く。船。を。出。す。  
餘子へ。海。ん。とい。は。成。呉。と。や。く。とい。ひ。の。づ。く。時。成。う。ア。る。内。に。あ。り。  
ど。く。あ。そ。ん。来。り。て。金。を。ぶ。ぬ。呉。よ。ら。こ。び。て。金。乃。袋。を。あ。れ。人。よ。返。し。  
あ。へ。ぬ。あ。そ。ん。う。ま。し。は。あ。ま。り。金。を。か。を。り。た。く。呉。よ。ら。へ。れ。も。  
い。さ。う。う。き。だ。あ。そ。ん。洞。を。あ。が。て。呉。を。ね。て。け。り。ぬ。呉。が。子。を。ら。を。  
あ。て。て。お。の。づ。の。う。来。り。て。手。ひ。る。實。を。と。り。し。海。に。ぶ。る。ゆ。を。け。べ。さ。と。  
い。を。父。う。ち。日。う。ひ。て。これ。親。子。を。め。り。を。船。に。さ。け。け。し。て。さ。に。な。が。り。死。  
た。う。ら。ぬ。成。何。れ。若。者。も。な。く。て。あ。り。え。く。い。を。安。穩。あ。る。と。い。は。す。  
その。ち。親。あ。く。家。と。み。ら。る。と。ぞ。  
年。人。の。え。ま。ま。ど。て。不。通。に。う。海。實。を。よ。ら。る。君。子。の。これ。を。よ。ら。  
こ。ひ。だ。い。さ。ぎ。な。り。あ。り。て。う。る。き。の。う。を。の。ほ。び。い。う。あ。る。を。さ。げ。え

まどろくす孝にうる財ゆいあふほけさむひが志こぞひ来る物  
 有ればたり。こぞひ志こぞ物といふありあがら。定よりあらす  
 平人か心ある成は呉氏松子結子とてくめてたつた  
 ざし。誠よひやんうさな。あまがらに財をむさがる呉氏  
 がこぞとてくまみまや

(二十八) 章氏妻

昌にと云こつろよ孝氏兄弟あり。兄弟を毛に子ほよりて兄の  
 同姓の子成金し有ひく。けが子と解しそてさるあふ。けほと  
 実子いせさなり。亦よあこびく。兄すでに子おらき満て。我よ  
 子那し。けよ中あひあふ子とばられたまえれ。けんいんけが  
 妻よぞんうす。妻がいとく子あて是とや。あひ子とえて是と

はそべ人結たあんや。たむひもよげとぞいへる。亦あふくこひたり。  
 兄が妻あうべ我うこふ。子まいせんといふ。亦さうてはめつ  
 持さる子と。いそ中いりきん。きん中あひたまふ子と我あへと  
 せむ。兄の妻終よさう。我うこる子を解りて。我をたど。終より  
 中あひ垂し。そ子とく。娘子乃名い柳といひ。実子せい柳と  
 ぞいひたる。柳いそして叔父が子と解りぬ

子形くて養子とく。子いそそその養子とくとむ。世よ美し  
 これ仁とあり。我もたは。父あや中いし。ななれども。母さかたて  
 けが産く子と愛するゆゑ。父も終よん心むる。ある小孝氏か  
 妻時すれく。子をまふけ。いさなりめづしく。いとけり。さう  
 夫乃牙結く。さう中りて。我を養子と愛して。さめあたり

うわづばやうい。ありがさき義婦ありむやむ若湯といふ

二十九 羅夫人

羅夫人は官人楊東山といひ人の母なり。年七十ふらまらば世に老い  
うわづば初とくかきて。うをよ入。ぶらう粥を煮てあまの男女よ  
あま福くひのませく。そのちをぬくの役は法をう。一日は東山  
是とくまへく。せくをたあ。は年ふけて中人あ。めにはをさる  
しめあ。あぶもあといふ。母のい。うれもみかの子なり。  
けいむ。いれをたが。せもあ。せて。そよ。く。む。ぶ。れ。  
そのう。は。を。す。い。む。ぶ。う。た。の。む。せ。い。う。く。く。を。あ。ら  
ぶとあ。い。し。せ

大抵人の主人。これい。き。署。に。う。ぬ。き。ど。下。人。の。う。と。も。あ。ら。ぶ。その

下人たる。い。は。あ。せ。く。る。身。あ。れ。我。ど。く。い。あ。じ。と。あ。い。せ。  
あ。ら。ぶ。羅。夫。人。人。乃。身。い。き。の。死。い。屋。さ。こ。な。あ。れ。さ。ゆ。を  
知。り。て。あ。の。と。身。を。さ。る。し。め。て。下。を。さ。う。く。い。せ。れ。く。る。と。あ。り  
が。死。仁。心。な。り。う。い。は。よ。その。こと。を。あ。と。ぶ。う。う。た。の。む。と  
い。り。是。の。の。せ。あ。れ。む。は。む。り。う。あ。の。死。が。故。な。り

三十 馮高

馮高は鄂州人なり。妻をめとやして年々さあきと子那。系へ  
の。る。る。乃。あ。や。う。時。その。妻。は。う。の。銀。を。ほ。く。馮。高。よ。い。て。  
君。い。ま。ご。子。の。死。け。銀。を。と。う。系。あ。く。妻。を。買。て。は。て。海。り  
き。ま。へ。とい。は。是。ふ。より。て。馮。高。系。あ。て。む。り。子。女。房。を。買。た。く  
銀。を。その。親。に。さ。う。ぬ。さ。て。馮。高。を。子。女。房。よ。身。を。う。る。故。と。こ。い。は。

女房うちたるにいとく。わが父官物をおひて家よ物あり。いそせ  
うりて官はほくのみと。馮高きうてぬく心とほしめ。女房成  
おやけさへ返す。報をばりもいそせ。やがて國にさうりぬ。  
妻出むひく。わがめある妻いづこふありやとさ。系わくの  
みほぶたうる。妻大にその仁心と感トき。はせが天の陰徳小  
免でさせあるま。そけのちしく報なきて妻懐胎して。  
男子をまふく。その子せうりうれぬき学者とあり。馮三元と称  
せし。宣徽南院使といふ官ふり。さき

け人すぞよかひえらる女と。うけ親のりさへ。報をさきめ  
國にさうりぬ。女乃おや返報をさき及なり。人の返報ある時ハ  
天々る。返報したまふ。馮高が後小い子をほめさうりぬ。

天の返報さうりけらなり。妻もまこあるくの人おら。世  
人女妻とて。子かそれとを妻をりむる。成禁する。今を  
馮高が妻を法とたまふ。あの子孫もあなり。妻もこの人嫁  
ふりぬ。身成ほらなり。成成中なるなりとあり。

三十一 朱軾

朱軾と南豊といふ。和名学者なり。が。ちう死里と出居て人よ物成  
あ。ゆるとけとを。家さいめく。ほづ。ある年乃善うり。才子  
の方よと送りくる。錢とあり。あけ。家よりら。海とて。及あり  
一人乃田主の繩うりて。泣く。あひぬ。朱軾そのゆきとて。人  
公儀よりうり。海物返納の時す。と。あき。子。うり。うり。うり  
うきめ。え。よ。ゆ。といふ。朱軾あられ。た。ひ。ま。づ。その。あ。ひ。物。の。ほ。ど。を

と云ふ。三子又百と云ふ。朱軾しゆせきがとちるたぢるを見る。けか教きやうはたじ。  
うう行ぎやうとおひひて。ととくく官くわんいいまま。彼あ田でん丈ぶが罪をゆるはめるを。  
教けう子しと妻子さいけけ後ごを待つを。ああるるああへへ朱しゆ軾せきをむりく。  
ううりりぬぬ。いいううああててるる年ねんをばららううつつむ。

けけくくとと君きん子しと平人へいとのううりりを見るを。平へい人にんのきを身に用  
んんふふすすぐぐるるななりり。仁にん義ぎをたここひひ慈じ悲ひをごふふれればば。天てん地ち神しん  
ぬぬ乃のは加護ごによううてて。いいううふふままががききんんととてて。ううももごごををせせぬぬああ  
るるにに。身み乃の用ようんんががるる物ぶつをたりり。性せい貪こん形けいのたすすべべきき慈じ  
悲ひをもええせせぎぎ。天てん地ち神しんののああめめくく。成せいふふむむをたここひひのの外がいはは  
けけごごりりひひででてて。身みをもつつすすふふいいらら。ははるる人にんをを満まんをこよよううりり  
君きん子しののままるるああれれ見みるをいいささううににああららむむ思しふふべべくくれれどど。ののいいささくく

みみふふ身み子しささいいららひひととああるる也也。けけ朱しゆ軾せきを年八十じゅうにままでいてて。三さん人にん  
のの子しをむりりのの國こく子し司し業ぎやうといふふ官くわんりりははききののここをもぬぬりりももれれ  
いいううめめくく。官くわん人にんとなりりてて。ゆゆううふふ朱しゆ軾せきを身に用ひひららるるをて見み  
るる也也。

(三十一) 葛藤

葛くわ藤とうと定結じやう大だい親しん年ねん中ちゆう乃の人にんなりなり。けけ人にんのの大だい小せう輕けい重じゆうはありり。毎まい日にち  
人にんを利益いやくとすべべくくとちううひひてて。ささののちちににりり利り益いやく一いつつつ。七しち日にち八はち十じゅう車しや利りややくく  
せせりりややどどいいひひらら。ああるる人にん其その利り益いやく乃のややううをとここをとここをと。葛くわ藤とうすすりりちち履り  
ぬぬぎぎ形けいるるももたた物ぶつはゆびびをけりりてていいららくく。たたととばばいいららるる物ぶつののささははままふふ  
ああるる也也。人にんをきめめくくはは重じゆうとたとといいひひくく。ききどどくくああららるる重じゆうくくのの  
りりももむむりりのの利り益いやく也也。乃の大だい小せう輕けい重じゆうはありり。ああららむむはは食じき水すい人にん乃の

そとがうまぐくに人を利益するに如かずといふことなり。たゞ久しく  
かこあふせよといふ久くたれざるは天地神ぬも感通して福を  
うらむ事。死を争ふと形人なる

世の人をわやうおゆるうあうぶれ人を利益する事も成さざると  
たりの世をわやうあうぶれ。け昔藝が法を案ずるよ。いふふあう  
賤きものも人を利益する事あると云へば。たゞいふ人よ  
一盃乃水をおとる。じりてたれ人よあるたさうとほごう。おの  
ちろ紙のほむ人を思ふ。一枚の板をりてめてそのもうとを思ふ  
えささるの顔或は人よあうぶれ。草をかりいさうをのむ或は人よ  
木の橋よ木竹をゆひそゆるがとた。これ人を利益するたまた  
富る人乃大若根よ。此は是程のゆい若根といふれまじきと

思ふべし。まゝ実よ人たれめによたれせんと思ふ一念よふは  
とある人乃大若根よ。さるうふはさる也。いふあうはさるごととあるは  
富て大さふ若根する人。おわやう慢心ある物。さる若根よ。人か  
若根するは其ん卑下して慢心あり。ようて天地神ぬも此より  
ぬくあまませあふたり。只つとめてあふさる若根のまじき

三十三 張八公

張八公ハ處州龍泉と云お社人なり。家とみてよく人をめぐむ里之  
よ病と癒す。年若く病を二人の子おゆる。その子承をうむりあり  
りひつらさ年といふも。八公承乃あひをほさる。子どものおまうら  
あひやまはる。紙をりてあうて。たゞいふを居て承を買て海  
ものごとくあひをさめてまじし。よもつひよりませば。そのか乃福

と返すなり是によりていある飢饉中其里人の食物よと厚く  
うらばりしとぞ

なりしむあき事年米はあひはほきりたなりハ公このついで  
あきふはあつばその秋とみこまを富せうと移んゆをさうす  
それ令銀承穀の地よ生むは天神地祇これを天下に人あへ  
あふたなり。あうるにわくきくそへ人久く荒れたるを  
天下の刑にこそせらる天地の清心よあつばその人いぞ冥加を  
らん海にたるが國おれ。聖よすむ人とうやしてじが富を  
あさぬる程あつめや。ハ公あつよあきしつたなり

三十四 蔣生

蔣生ハ明州定海といふ名乃人なり歎すくあきく親類よむの

まゝ一姪や後身はようぬものども世帯を中つて田地をうまじ。  
蔣生うれがのぞみよあきひて代をわけて買とり。後又田地を  
そめぬよう一くつうせき。あつらふとせらる。あこのまども  
あつらふ人乃をまよ。あきぬ事して家財尽くたうさかさひく  
田地とうらんとする時を蔣生又買とりておをんて返すあき  
てつうせたり。うはゆはびよひらう。あひかたきくうまこともは  
きびよいこまらあしとぞ

世は親類の衰微をみほぐ人おれ。はまど一変り二変りついで  
てその人よりあきこびいり後たちて終り他人よりえ  
あきみうとむ事又たれこれ美実た愛れくて人よあひのこ  
あそれむがたなり。仁者の心もあきぬ人かあをれとて一日よ

見たりと云ふ。親類とのつづきとていふべきやうなすの處に今  
あんなるをとりてむい。こゝを蔭生うつて人也

三十五 鄭叔通

鄭叔通を中より夏氏と縁をむすび並て。系ふのほりて学  
問一學に成就して。系内して。官人となりて。後國に海らうの夏  
氏のむすめとよびとらん。そのむすめは。仲た病り  
よりて。啞とありて。叔通が親類をもち。妻をりて。死んとす。  
叔通がいよく。我け女の病る時。縁をむすびて。病によきて。遠  
交せんと。むすめは。あてをさうらふ。そのうち。我これとめと。一生  
交あるべうらふ。ついでいふ。すて。その處に。いひ。は。あよかの  
啞とむして。妻とせり。啞乃うめる子。後よ。死官人とあり。父

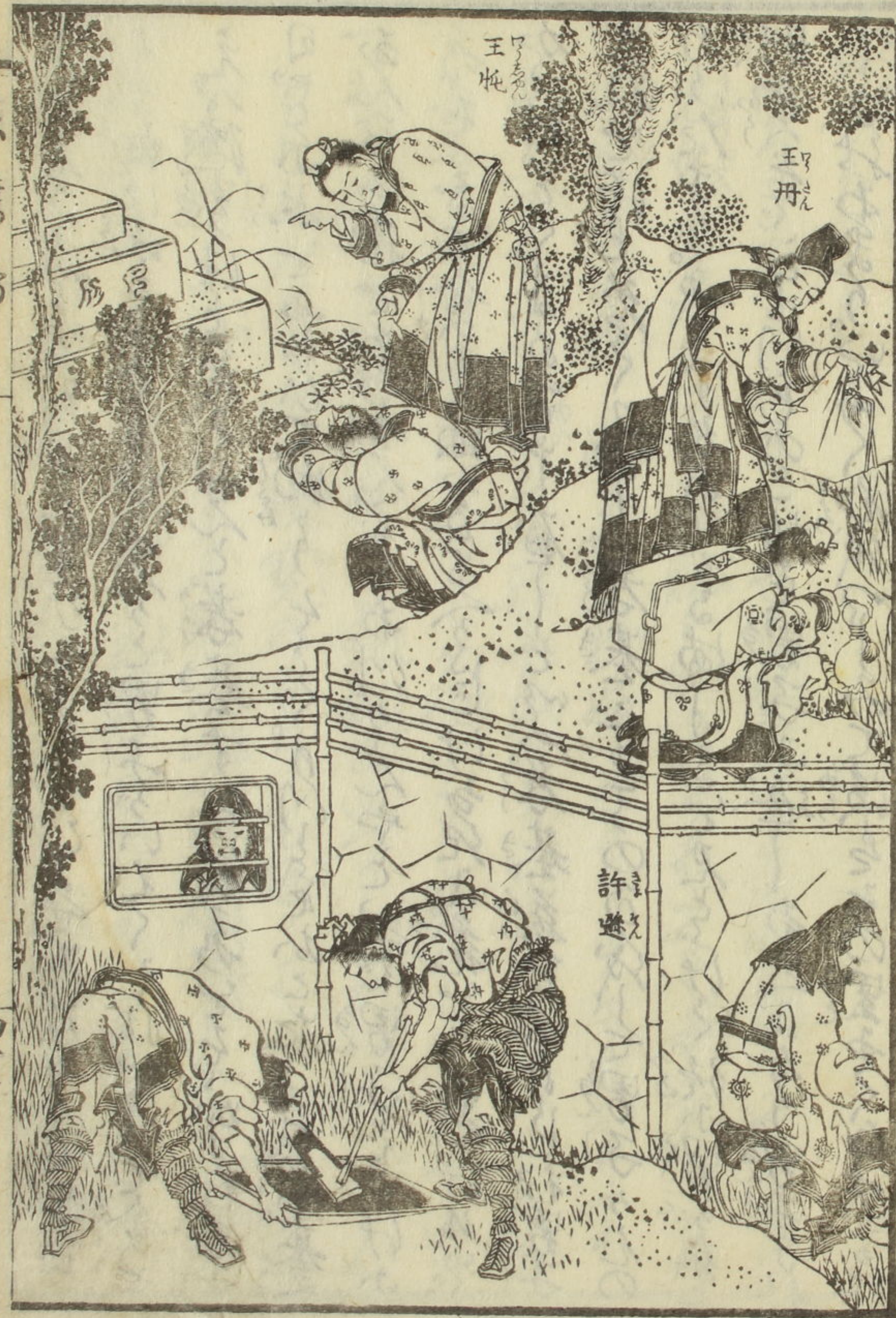
吾根の報なり

叔通が信義は。これに。いひ。あらん。有り。世は。勢ふ。は。欲り  
むす。て。す。で。小む。と。び。き。る。縁。を。れ。た。が。あ。り。これ。信。由  
なり。義。と。あり。叔通が。あ。り。と。より。な。れ。ば。人。あ。り。人。あ。り。は。な。ら。ぬ。  
慈。悲。心。な。り。の。こ。ゝ。む。や

三十六 張孝基

張孝基と許昌といふ。その士なり。其が。里に。ある。人。あ  
り。氏。が。聲。ふ。なり。ぬ。あ。よ。が。氏。男子。一人。あり。人。が。つ。ら。に。あ。り。て。  
氏。を。て。死。め。んと。す。る。と。れ。家。財。を。く。張。孝。基。に。ゆ。づ。り。あ。り。て。  
彼。男子。を。お。ひ。出。し。たり。孝。基。の。ゆ。づ。り。と。う。を。教。を。か。め。り。  
居。り。たり。が。ある。時。の。男子。の。下。さ。は。ゆ。り。て。市。を。す。





ると云く。いとう新くたもひ。ちうくよびおせていひくると。あんど  
 よく初に水そぐるをせん。と男子がいふ。それごとくして食を  
 え。バ。随分はと免せん。と孝基すなり。あそそがむ男子  
 日ごとく水をあひて。初うそぐ。めいとおとたうぞ。孝基  
 あんど小菴とあぶきん。よくお川うんやと。いと。男子そけい  
 あそそぐて。食をほり。さう。にけり。免。菴と。あつけゆ。  
 か。おとくまのせや。菴。と。いふ。孝基。菴を。ほり。じむ。男子  
 ちれを。ほ。と。免。く。よ。孝基。こむ。の。子。成。と。男子。が。心  
 あう。た。ま。り。ゆ。す。あ。わ。る。ほ。ど。さ。と。え。け。終。小。菴。が。菴  
 財。寶。を。む。の。もの。と。し。ど。男子。小。返。一。わ。る。よ。く。男子。れ  
 一。さ。お。ま。り。い。ふ。く。に。成。つ。み。て。後。と。その。里。を。く。あ。ひ。た。死

吾人とぞあはる

けり。子。を。の。てる。人。す。で。よ。死。あ。んと。する。時。は。聲。あ。も。あ。そ  
 兄弟。も。あ。は。し。と。が。家。財。を。れ。ゆ。り。あ。そ。そ。そ。実。子。と。が  
 返。出。せる。我。國。と。そ。お。ゆ。い。き。く。ゆ。なり。ち。り。り  
 是。う。ア。そ。子。を。愛。する。お。ふ。死。なり。い。ふ。と。あ。は。る。ら。さ  
 子。小。一。派。と。ゆ。む。お。む。が。絶。ふ。う。し。あ。ひ。を。そ。仇。定。め。も  
 一。か。う。ぶ。な。れ。を。智。恵。ある。親。類。よ。ゆ。り。重。て。け。子。後。よ。心  
 せ。と。あ。た。あ。り。財。寶。乃。そ。う。も。返。一。あ。そ。人。と。成。ぬ。ひ  
 て。也。統。る。小。彼。ゆ。ら。る。人。死。人。の。け。ん。成。推。量。一。か。が。財。寶。の  
 ね。ら。は。ぬ。よ。あ。ぐ。死。人。忠。実。子。と。あ。は。れ。ま。は。実。子。す。じ。よ。く  
 あり。ても。終。無。さ。や。ふ。の。い。ひ。は。孝。我。神。と。り。富。貴。よ

たつた。是(これ)というある心ざや。さきう好人(よきひと)の天(あま)も神(かみ)もあはくし  
すてらるるゆゑ久(ひさ)くくむにて衆(あま)ほらぶるあり。つゝむ  
べいおそはべい。是(これ)をおそはべいといふせん張(あ)孝(かう)基(き)ぐとくせん(せん)の

三七 孫叔敖

孫叔敖ハの終(すま)り一楚(そ)といふ國(くに)人(ひと)なり。れはれきこつあむり  
出(で)くおそむく。阿(あ)と先(ま)ふうらの法(はふ)ききる。むびとんきり。これと  
西(う)野(の)の地(ち)といふ其(その)法(はふ)の人(ひと)西(う)野(の)の地(ち)を見(み)つきるもの。うらむら  
死(し)とあむいひあむいせり。叔敖(しゆくあう)かむひくるはれ孝(かう)終(すま)りくけ  
むびよんおむききる。その法の死(し)のうらむら。はきばそそ是(これ)を  
又(また)人(ひと)よんせく。その人(ひと)もあむせんや。不便(ふびん)あれば。お終(すま)りて  
くさなやとむひて。れそあうらうつ。さど。ちうくよりてそら

むびとたまきこるて。おふらうづそ終(すま)りにて。うちあむきこる。お  
はまよて物(もの)をもくそぞあうら。母(はは)やうそそその故(ゆゑ)とさむ。  
叔敖(しゆくあう)うちあむらう人(ひと)はひよい西(う)野(の)の地(ち)とんきるもの。うらむら死(し)  
と。いそ今日(けふ)これをみり。母(はは)よのれてあむ終(すま)り。が終(すま)り  
と。いよ母(はは)又(また)そ其(その)むびいづこふあむやと叔敖(しゆくあう)人(ひと)んきるもの。こ  
さ。お終(すま)りて去(い)にうづとけむとこそふ母(はは)是(これ)をさうていふく。はま  
ざれ。あむ死(し)なき。陰(いん)池(ち)あむは陽(やう)報(ほう)ありといひつゝ。おや。と人(ひと)  
んてあむらる。成(なり)終(すま)りて。お終(すま)りてうづとけむらむの。長(なが)根(ね)と天(あま)を  
いぞすてむら。あむお大(おほ)なるさのむきとんきとひあむさあむら。が  
案(あん)終(すま)りてその身(み)はさなむ。れと終(すま)りて。後(のち)其(その)國(くに)人(ひと)令(れい)平(へい)と云(い)  
たうと位(い)たり。終(すま)り。おとみけ。いのちもあむ。子(こ)孫(そん)をお終(すま)り



こ孫一土ふるづそめじるは海とにいづき陰徳あまひ  
いうで陽被まらるるべき

三十八 伏湛

伏湛を漢の平原といふ所の守護してその家ゆさう也天卜大  
乱りしる民も食物ふとほし伏湛も妻子よりそをけし  
民もれ飢ういが家ゆさうとてもいづては心の食物を  
ひんと修よその身も妻子とら船船夕さあてあし食物と  
らひ知れあさ海もあふれわけてくるはざらわといそめ  
とづく民もれどこころ伏湛の家に来りて中あま居る  
民も百餘う海もあふるるせり  
そめばそとみせれととと物をおとまづべきれはいそく

抑む是平人のつひれん也又よれ食物ふあまは  
うふしき食物ふも人乃あまはれ所あり然るも伏湛の  
守護する所民の困窮をあまれと物とほとじてあまざら  
のそあまはる最愛の妻子も海もあまはる食物ふひる  
ことほとにあまはるんごうあまはるや食ふあまはるその外乃  
儉約あまはるれり世中人飢饉のそあまはるごうあまはる  
そのそあまはるあまはるれり物とほとほもあまはる伏湛乃  
そめはあまはるひまはるれり

三十九 王丹

王丹の漢の京兆中郎と云所の隱者也人志と和さすすらふ  
る成この人乃そいづとよくほとむるそよ後とべはと下部の

民乃耕他をてらハ王丹を酒さうまを刑念して田の時  
又出く。よくはとむるものよすめつとめふかこころものよ酒も  
はうまもすめど毛によつてれたるものごとと王丹よたたく。  
後のるよくはとめたる程。置ふと備ざる民もあう死その内  
たを成いづつあるものお色。それが父や兄とえうてせああり  
ぞきぬ死する人われづあづ物とあうてあうと巻葬せしめ  
らう。うはとくすると十年にたえていさうあうと後めさ  
まう帝おはう太子大傳といふ官までのあうていとめてう  
あうらうらうとて

本書そのの論いさく世は郡邑の守護して民よあめ  
うまけととあうはくあり。それ王丹にえあうと予を

らく王丹をドめい祿とる死隠者たあうてけが財をほく  
民をめぐめ。ゆるに郡邑の守代官とて去民をめぐ  
たをらう心あうはとにうづあうらうふてを

四十 李善

李善は漢代南陽の李元といひ人乃をえあうらうが李元一家  
疫病をえええみか死して二二歳の孫一人のときり。名とバ續祖  
とあういふ李元が教りこまり。大おとみて下人おれ。下人を續  
祖とあうして郡内の財寶とくくけととむと後李善はあり  
さ梅をえうとむとふ續祖とて死あうとあうて山沖にくれんせ  
ほくうとととえらうほどよゆあうと年十あうらうふありぬ李善  
つて山とていづ。あうとたあう鐘離とといふ人よりの次第つ



あつちうあつちうを捕りてさぞいひくいのちたさるもの百餘  
部なりしはそその名をわけて一とよに申しさみうとさう  
免し己をさして皆ゆるされるとせん

袁安がこの中みうとけゆるされもなくハは百家の衆人小先  
ごちていが身死と念死と思ひさめてそをさういひつゝ免  
仁あるうね勇たさるう神。それ物を心に満しき。其実を救  
さうさよせられりて死なずむとら。悔さう是をのがさ  
ごふあるを袁安がむむとらさうは百餘部人これ其実の  
死せののさしむい根根たあうきとむ袁安が身言位と  
さういぬ。子孫強よいさるまご。さう言位となりて代さう  
秘すけうさういばさうさうりふてはは

四十二 王忱

王忱は漢の廣澤新起といふ西の人なり。京に於りてこの  
了ら。人をもあさ家乃内よむとら。病入ある或る。あれをさ  
を國より来りて学問する人なり。王忱ふくあられを  
一ぬ病人中まひいさなりて王忱よいひたる。我ほとあく死を  
願し。強よ金十行あり。是を其方まいつする也。祿がハハ尸  
骸をさうさうねさめてさびとひひく。終よあふん。王忱は  
弟とあぬ人をれと。昔の満さるるあはハハの十行の金  
の内を竹を引ひく。葬具をさうら。尸骸病人がら小まらり  
ねさめてのら。九行の金を棺の中に入垂てさうさうさう。死  
人の名は金彦といひて。洛縣といふ西の人なり。後小王忱引



里之洛縣<sup>らくけん</sup>よゆて人とうるとして子の法<sup>ほり</sup>でふかの金彦<sup>きんげん</sup>が子  
以<sup>も</sup>出<sup>で</sup>たれ<sup>ば</sup>その人するのち金彦<sup>きんげん</sup>が父<sup>ちち</sup>とあやうがその葬<sup>さう</sup>乃<sup>なり</sup>  
阿<sup>あ</sup>りさ海<sup>うみ</sup>をこえて感嘆<sup>かんたん</sup>よきとてぬる<sup>は</sup>津<sup>つ</sup>恩<sup>おん</sup>久<sup>ひさ</sup>く報<sup>ほう</sup>じ  
まひせざる子の罪<sup>つみ</sup>ふるまよとて海<sup>うみ</sup>く物<sup>もの</sup>をかきまかれ王<sup>わう</sup>怵<sup>じゆく</sup>  
を<sup>を</sup>けり<sup>て</sup>も<sup>も</sup>を<sup>を</sup>けり<sup>て</sup>は<sup>は</sup>まぬ<sup>ぬ</sup>け<sup>る</sup>世<sup>よ</sup>ふく<sup>く</sup>とあくて王<sup>わう</sup>怵<sup>じゆく</sup>が名<sup>な</sup>  
を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>こ<sup>こ</sup>え<sup>え</sup>終<sup>つひ</sup>よ<sup>よ</sup>い<sup>い</sup>め<sup>め</sup>死<sup>し</sup>官<sup>くわん</sup>人<sup>にん</sup>となりて子<sup>し</sup>孫<sup>そん</sup>も<sup>も</sup>な<sup>な</sup>は<sup>は</sup>久<sup>く</sup>  
す<sup>す</sup>め<sup>め</sup>ると<sup>と</sup>て

き<sup>き</sup>身<sup>み</sup>心<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>振<sup>び</sup>人<sup>にん</sup>乃<sup>なり</sup>又<sup>また</sup>ある<sup>る</sup>人<sup>にん</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>死<sup>し</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>子<sup>し</sup>王<sup>わう</sup>怵<sup>じゆく</sup>  
形<sup>かたち</sup>そ<sup>そ</sup>王<sup>わう</sup>怵<sup>じゆく</sup>を<sup>を</sup>戸<sup>こ</sup>鞆<sup>と</sup>よく<sup>よく</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>が<sup>が</sup>その<sup>その</sup>送<sup>おくり</sup>物<sup>もの</sup>王<sup>わう</sup>怵<sup>じゆく</sup>あ<sup>あ</sup>て  
こ<sup>こ</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ご<sup>ご</sup>人<sup>にん</sup>又<sup>また</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>め<sup>め</sup>や<sup>や</sup>其<sup>その</sup>う<sup>う</sup>臨<sup>りん</sup>終<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>財<sup>さい</sup>是<sup>これ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>せ<sup>せ</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>とい<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
么<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>金<sup>きん</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>是<sup>これ</sup>王<sup>わう</sup>怵<sup>じゆく</sup>が<sup>が</sup>物<sup>もの</sup>也<sup>なり</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>成<sup>なり</sup>心<sup>しん</sup>と<sup>と</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>て

擴<sup>くわく</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>小<sup>せう</sup>う<sup>う</sup>づ<sup>づ</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>。其<sup>その</sup>無<sup>む</sup>欲<sup>よく</sup>の<sup>の</sup>程<sup>ほど</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>方<sup>かた</sup>は<sup>は</sup>人<sup>にん</sup>誰<sup>たれ</sup>も<sup>も</sup>け  
こ<sup>こ</sup>そ<sup>そ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>満<sup>まん</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>世<sup>よ</sup>い<sup>い</sup>人<sup>にん</sup>死<sup>し</sup>を<sup>を</sup>喜<sup>よろこ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>死<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>死<sup>し</sup>物<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>  
こ<sup>こ</sup>も<sup>も</sup>阿<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>返<sup>かへ</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>物<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>返<sup>かへ</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>と<sup>と</sup>あり<sup>り</sup>是<sup>これ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ん<sup>ん</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>や

(四十三)

許<sup>きよ</sup>遜<sup>そん</sup>

許<sup>きよ</sup>遜<sup>そん</sup>と<sup>と</sup>晋<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>武<sup>ぶ</sup>帝<sup>てい</sup>は<sup>は</sup>死<sup>し</sup>乃<sup>なり</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>を</sup>旌<sup>せい</sup>陽<sup>やう</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>る<sup>る</sup>者<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>護<sup>ご</sup>と  
あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>。旌<sup>せい</sup>陽<sup>やう</sup>乃<sup>なり</sup>民<sup>たみ</sup>を<sup>を</sup>困<sup>こ</sup>窮<sup>きゆう</sup>と<sup>と</sup>年<sup>ねん</sup>貢<sup>こう</sup>を<sup>を</sup>た<sup>た</sup>め<sup>め</sup>え<sup>え</sup>る<sup>る</sup>乃<sup>なり</sup>代<sup>だい</sup>  
官<sup>くわん</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>め<sup>め</sup>る<sup>る</sup>海<sup>うみ</sup>ふ<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>もの<sup>もの</sup>む<sup>む</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>。許<sup>きよ</sup>遜<sup>そん</sup>旌<sup>せい</sup>  
陽<sup>やう</sup>よ<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>死<sup>し</sup>り<sup>り</sup>が<sup>が</sup>黄金<sup>くわうごん</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>出<sup>い</sup>す<sup>す</sup>。む<sup>む</sup>そ<sup>そ</sup>ふ<sup>ふ</sup>居<sup>い</sup>西<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>海<sup>うみ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>  
園<sup>その</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>こ<sup>こ</sup>せ<sup>せ</sup>居<sup>い</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>こ<sup>こ</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>去<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>民<sup>たみ</sup>の<sup>の</sup>困<sup>こ</sup>  
窮<sup>きゆう</sup>を<sup>を</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>ど</sup>こ<sup>こ</sup>き<sup>き</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>び<sup>び</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>免<sup>めん</sup>て<sup>て</sup>園<sup>その</sup>よ<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>掃<sup>ほう</sup>除<sup>じゆ</sup>を<sup>を</sup>  
く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>。民<sup>たみ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>木<sup>き</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>り<sup>り</sup>掃<sup>ほう</sup>除<sup>じゆ</sup>す<sup>す</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>。那<sup>な</sup>の<sup>の</sup>

後<sup>ご</sup>考<sup>こう</sup>考<sup>こう</sup>

五<sup>ご</sup>十<sup>じゅう</sup>五<sup>ご</sup>



五十六

五十六



五十七

五十七

金をせりひえたり。是れよみて年貢をたて。あげたり。さ  
るるもとぞ

人よ物をほごして。その人夫より。さうき。そのよ。後  
こまげさうき。せ。は。ま。れ。年。人。の。心。を。あ。り。君。子。の。あ。の  
ら。は。人。よ。物。を。ほ。ご。し。て。つ。が。恩。を。も。あ。ぬ。を。悦。び。り。  
是。す。な。り。陰。徳。な。り。その。う。君。子。の。名。を。り。と。あ。は。人。よ。物。を  
ほ。ご。こ。ま。げ。の。名。を。り。と。む。る。小。徳。の。名。を。り。と。あ。は。人。よ。物。を  
あ。さ。げ。る。な。り。許。縣。が。心。が。ち。あ。り。が。じ。と。い。と。心。を。り。小。金  
を。う。づ。か。せ。て。り。と。よ。り。あ。り。さ。う。あ。り。民。に。む。ら。ひ。え。さ。を  
し。は。ご。め。て。い。ま。り。と。あ。ん。な。れ。ご。り。れ。乃。も。の。の。ご。り  
う。小。物。を。ほ。ご。こ。ま。げ。を。自。身。を。き。り。と。い。ま。ご。り。其。人。あ。り。よ。後

こびざれ。つが恩をあらすやといふ。あさほ。きう。船。さう  
う。さう。れ

四四 狄仁傑

狄仁傑。唐の并州大原といふ所なり。初。は。は。は。法。曹  
參。軍。と。い。ふ。官。に。あ。り。つ。る。村。に。さ。い。は。り。て。遠。く。國。へ。勅。使。を。き。て  
ら。む。さ。う。し。で。き。う。同。官。の。鄭。崇。質。と。い。ふ。人。の。役。を。し。は。ご  
ま。り。ぬ。鄭。崇。質。老。母。あ。り。そ。の。お。母。を。つ。つ。と。狄。仁。傑。は。こ。小  
い。ま。の。方。に。老。病。の。母。あ。り。万。里。の。旅。に。た。り。む。る。ん。こ。と  
母。子。の。あ。げ。さ。い。う。な。り。う。あ。ん。我。は。い。さ。る。と。わ。り。か。た。う。う。は。り  
な。り。と。い。ひ。く。上。に。中。て。崇。質。を。き。て。仁。傑。の。勅。使。を。勅  
られ。守。る。と。い。ふ。

あつさ火子にそぬるらん名あつひなり。まして同族の友同  
役の朋輩となれ。つひいたのめいげふいひうらせど。難義小  
あつていおほや。愛す。はせの万里の旅乃空以計。艱難  
なるべし。崇質母子がなむ。ほごをさしひや。子成  
けられてうらむ。仁傑の仁心い。こむるうか。世の友を  
小うす。人毛よ。つるるりあむや。

四五 郭震

郭震と魏州貴郷人なり。年十六。みよ系にのりて。学同  
是。こよ親死して。家す。てて。葬法。能た力なれたものあり。郭  
震がめとに。来りて。泣く。合力をこひり。郭震めと。より。あむ人  
よても。あうり。たれど。あそれ。又思ひて。合力して。母の。まに。葬る。

せて。その人。結名。せも。この。郭震と。同族の。薛稷。趙彦昭。など  
いふ人。あれ。と。名も。あ。ぬ。人。結。あ。小。学。同。料。なる。し。あ。む  
こと。成。そ。て。ま。は。は。と。郭震。それ。と。心。と。せ。貧窮  
き。思ひ。て。す。す。学。同。と。つ。め。居。る。が。十八。あ。進。士。よ。あ。む  
ら。後。よ。安。西。結。大。結。復。あ。ど。い。官。小。す。み。り  
喪。あ。る。成。る。む。い。学。者。の。子。あ。む。い。あ。れ。ど。学。同。の。名。小。魏。州  
より。なる。ぐ。系。の。り。その。学。同。の。料。を。み。る。う。れ。よ。あ。む。い  
年。人。あ。む。目。より。見。て。い。悔。む。に。愚。痴。なる。や。好。む。ば。薛。稷。趙  
彦。昭。が。ら。い。は。い。と。り。た。あ。む。は。は。と。も。君子。に。仁。義。の。心。結。あ。む  
を。ま。に。た。こ。あ。ひ。て。あ。と。う。れ。を。ば。ん。を。う。ら。む。ぞ。ん。を。う。ら。む。ば。と。て  
ぬ。く。と。う。い。や。あ。む。の。よ。い。あ。む。け。つ。く。み。ま。の。う。ひ。の。す。だ。く

義理をく人あはれはうへにゆる也。はまに郭震の言官  
小ひりきれど。それといひしる薛稷精彦昭の米室より  
とてよあえど。おれ天道自然の報なり。たゞしがあがりて  
見て。人せはれむるをぬん。後らふはきつるべし

四十六 裴度

裴度は唐の河東乃聞喜といふ和州人なり。いつてをらざれり。  
洛中に人相をよく見る人あり。裴度はゆきてあひまれば人相もよ  
らばといふ。ある時裴度宿を立出く香山の寺にわきてす  
みあはふよ。むらりの女房来りてつゝ物を堂乃欄干小座て佛を  
たがへしをひのりくるまや。毎く久くして出たりぬ。かまひあつて  
その。たの成もこのあまありなり。裴度これらけこの女房は

無き物ぞこかへば追つてさうせまりきれど。いやいづるべ  
ぬととあはれ。さうめくめと免みぬるべし。そのとたえさせむと  
たをひよく海ありておなり。日すまよ善くれども女房来りて力  
あつてさうて海あり。あを乃日又とやくもちゆきて寺のほとりふ  
たわくれは。この乃女房なり。来りてつゝ物をきけぬる  
さゆなり。裴度は何せうきづひのみとこ女房がいく。いづ父罪  
たうて罪なれちる。こののみさひまひよ玉帯ぬるの犀帯一つ。  
あつひ子貴ある人になり。えき。それあま。父が罪をあがむんと  
せし。この和りさうしきひ侍る。今の父がけむひのさるべきたは。  
うあ。さねあまなり。りやと来りてきづひ侍るといふ。裴度はさな  
らちけ。み物をさう出く。さうせふなり。女房はををとりて。



えざるをさけむく合カレそのゆきとせせり。はる  
ゆきよけが身い員さのすりてすすたるお修程きとさるも  
あをぬめふれがぬるあ。然もどとそれどむとさるき  
ほごころそのどはとある。後小禮部尚書といふ官より  
てさみけうあまこけりたは子とと。またた位よすみぬ  
人乃こあをさあ。けが身けを免を後小する仁者のご  
なり。天うあは光よさひをさしたまふ。今とをあま  
我ふよくとたれもふれ小人がけり。天うあは光をあ  
みるの崔郎一はけが身けうとむとれく。人の艱難と  
さくやんとあと思ふ。とさるうあうけ父も子もたふ官に  
すこ大福よあがること

(四十八) 李珣

李珣は廣陵と云ふ地をたあまふれたことなり。けりやと  
心さめてきは其は世と乃其あま一人升とあつり。とさ  
小ある升とさるよ大なる升をむひたり。李珣がうり升を  
あへ。律よけが身あよりさるうあま。升とさるよ升をさ  
て。さるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。  
父母とあま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
さるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。  
是れさるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。  
今もあまのうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。  
さるうあまのさるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。さるうあま。

そこのありありいあわく人祝いよう。けが来たうらうらんとお思おもひ  
はまば目めてるあので風かぜあきほまはあどさけなよろこびやとて  
ありとひよりとひださう成なる。毛けいあるあんぞや。はまば  
とてこめあう侍家いけごに富とをいひとと見えんぞ。本ほんが眞まこと加かある  
あき見みまがられらるる終つひは天てん罰ばつとらむる處ところなる

四十九

孫泰

孫泰そんたいを山陽さんやうといふ所ところに人ひとなり。母ははこのおどろくひて死しなると  
する時ときはあたまむとりのむさあありらるる孫泰そんたいまたのそあくと  
あま目め成なりをそあ目めとなりこれがあんぢう妻つまとあがごご妹いもうとを  
うらぶ妻つまとせよといひくうせぬ孫泰そんたいも終つひえはといひつね  
あま目めとせり。人ひとそのゆきをそあ孫泰そんたいがいそく妹いもうといふあうは

うればめと侍人いけにんあやううん姉妹あねいもうとうことなるせが我われあうで誰たれめと  
らんといふ。又ある時とき市いちふ出でくふらたうらごの燈籠とうろうを買かひて  
りらあうそみう死して見みられらるるごひよていあうで銀ぎんなり。孫泰そんたい  
するとあまそせ成なりて市いちふくせり又あると死し我興わきこうといふ所ところ  
あて神かみらうの屋やこと被か二百にひゃく貫かん買かひて家いえはくしてとあ人と  
思おもひて。うらう乃な孫そんをそあ中ちゆうくひしてうら。はくその屋やとら  
あうら家の肉にくは優やさ来きたりたるものどもみるく他た思おもうつるべと  
いふよ。むらう乃な老女らうにょとあもてな死しの形かたちめと孫泰そんたいあやと  
あまひく是これ成なりといふ老女らうにょがいそく我われとあを屋やあて久ひさくけ  
屋やふあう。子孫こそんあうらうて家いえをきもたご終つひは屋やとてとて他た  
人ひと物ものとあす。あうらうとあ孫泰そんたいとていふうあられ。このく









王質

王質

玄  
考

六  
五



韓魏公

陳老叟

查道

錢若水

陰  
陽  
信

六  
四



よりつごころの財寶ありはる中てう船こころこある  
づりりあて終は波つひ女をえさる若水するら守護乃  
こつむそにはほきけさく守護せらき急な女が父母を  
ふびく見せられぬを是つがむとあなりはくこころこ  
ざりせりとよろこびあつて罪人ゆるほきなり。  
罪人のそぎ守護は海よりて若水さうめなれら海は  
つが命いそたをるはゆん何りが死津恩徳よとと有り  
ろこころどきられたお護とが力あつたまろく義若水が  
功なりといひ罪人さちよ若水が救ふゆきこころふ門をどて  
いとどひくきびめてとたいめんもせは罪人若水が救乃外を  
めづりて終をあきくあらさけび恩徳の報とが死とといど。

こころもいそば罪人せんさくつあのが家よためて百僧を供養  
若水が命長遠乃法をかこあをせ報謝ふと備へる。  
其後守護若水がけいびのそつた。系に中のおせて上へもつえ  
あきんといをあつてくそ若水いひくるやういづけ罪人よ  
心をほくはるい國よ急をさるをて死さるものあらんやう  
あとおもふなりよゆ也いこころきこえをめとむるふあつた。その  
うへにあり終まに上ふこえあは初小せんけくせなは乃  
何が建惑よやれよびはるん若く守護乃は慈悲もこのけ  
いべ。若水沙法あてせめといふ守護ゆよく感と有り。  
あつたこころ陰徳ありあつたや。う陰徳ある人よいそ天の  
眞助あつた。後二年づりあつて系へめされ言官よあきれ。





五十四 韓魏公

魏公いさむの琦と申す。宋の大臣なり。ある時張氏なる女  
房忠みありし。ちよ死を錢三百貫買とて妻とあふと  
たむひく。先その女が身りと成こを違はれ女海とてとつ  
こころいさむの官人郭守義と申す。妻よけ守義公  
はへらして官禄ふもあれ。郭乃内みか餓死せん。守義  
うり侍るなりといふ。魏公さうてあされたとひ。身の志は三百貫  
乃錢をりせて送アそ。その家より出るとして。汝が妻の罪官  
禄よちるべきほどの事ふあし守は。上よりつて。食後をこふ  
べとひいたしてぞくされる。女家より上り。郭の女は。又  
夫の守義ハ。魏公のたへは。海をよへる。中をきれば。罪あり

よはごまり。二きび官禄は。はさぬ。そのち女は。公は。死  
こく。魏公のりこまひり。魏公女をけが。郭へと出さる。人  
していさむ。あらさる。郭。天下に。郭大臣として。官人乃妻を妻と  
す。海に。郭。いそぎ。海。汝が。郭。を。か。む。又。三百貫  
の。錢。を。な。ぐ。え。さ。さ。る。也。は。く。の。え。と。た。も。あ。く。守。と。あ。ん。と。ん。を  
あ。ま。り。お。く。下。け。あ。さ。ふ。あ。ま。ご。せ。死。あ。む。り。の。ひ。て。あ。ん。を。と。  
人。を。あ。ら。う。ぞ。追。へ。け。る。

女を三百貫ふりて。孝と一目見く。おひ返す。その錢をさる  
ぶある。錢。を。さ。が。ま。乃。罪。あ。れ。を。こ。じ。て。二。き。び。官。禄。は。は。り  
しむ。い。う。あ。れ。ば。君。子。の。仁。愛。を。こ。ま。す。と。い。は。る。が。や。又。小。人。乃  
う。ま。り。の。た。と。財。と。の。欲。を。こ。ま。す。と。い。は。る。け。ぬ。と。





うるはちたれば色欲やん何事んかやうに今もたれとハせて実ハ  
 つの仁心とありしやめらるる也。是とあはし人兼こく下官也  
 系またん〜比財ももごめてこりるべきに一念の慈愛に  
 心うねり。我子孫利ハ事えうだ。は万端とあつて。歎とこめられ  
 一ハあつた賢者あらずや

五十六 王質

此ハ豫州乃成りきりし時。その民むすめ縁をむとびて約  
 束の時をすべし。むとびくこりし僧徒をれどもはむむこりて  
 なる西へうつるを。王質せんしとをむとびよ。むとめの親戚  
 まづく。そのひびくしてむとびゆなり。王質あをれしてつひの  
 銭おほむすめのおやにあつて。祝云その一ハめり。又人のまる

物をぬとてそのものごとく来し。王質そのぬとて成せんく  
 すふ。平生不義あり。仇家ふせまりき。海くけりあり。王質  
 これを不便とてむとびく。そのぬとてその物をむとびくもの  
 ぬとて返り。つひその物をぬとて人よとせしゆる。ぬ  
 物をたぐ夜とぬとむ。これ罪すべし。是とその夜をあり  
 さいめて。ふよりあをふむ。されば仁者と罪するはあひび。  
 王質く罪せしむるのこよ。守銭をほご。夜とあふ  
 仁愛とつとぬ

五十七 胡宿

胡宿ハ常州の人なり。縣をおさめて民よあをれぬ。つひり  
 心りの僧とす。なむ。その僧石らと黄金とあり。秘術を



いふべし胡宿のそあらば危文正公といひ人をもよほす水  
 りを要してはよの福と形を術を造る人ありてはひて  
 死せる時文正公よひひるは我子幼少よは秘術はくはじ  
 君よつてまいつせんそくその術は死つておれどそれよあり  
 業あどおそくしてはひてせり。文正公よひといはるはくも  
 それを造りては。今死せる人のいふ事あるは。あてははるは  
 そあつては。幼少のそ成人せる時父が討の海にては  
 つきと業も造るされるとあはけ。秘術はくはくす

後傳傳終

北林堂蔵板書目

江戸中橋廣小路町 西宮彌兵衛

西藩長谷川先生總理  
 流峯千葉先生編集

算法新書

全五冊

合卷大冊 一卷

八算及二相場割差分盈朧求積開平方開立方  
 勾股弦容術天元點竅交商變商整數逆索  
 成數互減通約互約逆約術約増約換約零  
 約割一朧一朧管適盡變數拓差梁術綴術  
 因理角術及雜題小くは術毎の起系とあり  
 極形術を附録し古人の解しからを詳  
 極々算術中の秘と詳小の記

西藩長谷川先生創製  
 鳳堂秋田先生編集

算法極形指南

全三冊

極形術法則より起り一個の極形變化して數  
 件の數を成し一種の極組合還系して不同の組合  
 件とを以て理を尋し群の難問二百餘条起系  
 を載せ前人未發の窮理解成捷徑の良法あり

西藩長谷川先生閱  
 梅坪平内先生編

算法變形指南

全一冊

局勢の變形を明辨して術路を探索し極形を  
 施す妙法古今未發の論あり初學者士に去に  
 ようずいあるをくは

碓波長谷川先生閱  
藤樹山本先生編

算法助術

全一冊

容題の秘訣を求むる者、利の處を適等、  
金二百餘條を擧ぐ、算中運筆の勞を省く、  
一冊とて初学に於ては、必らずも海の上を  
くぐり、すゝむる秘訣を以て、示す。

碓波長谷川先生閱  
岳湖内田先生編

算法求積通考

全五冊

方圓截積、覓積及雜形の積を求むる記、  
録、一、之表件、成、算、中、運、筆、の、勞、を、  
省、け、用、法、を、詳、し、く、秘、訣、を、以、て、  
け、出、し、て、求、積、の、處、を、示、す。

西碓先生閱  
鳩山先生編

算法約術類聚

全二冊

遍約互約、逐約、齋約、自約、倍約、換約、零約、  
簡管、ホの題を設る法、別より、詳義、秘、  
あ、る、ま、う、詳、し、く、約、術、の、全、書、と、  
西碓老師の算生山口千葉平内内田秋田久間本谷  
宮本の法、先生及社中の法、字、法、算、書、の、詳、義、を、  
老師の訂正を法と、藏と、蓋と、し、て、秘、中、  
滿、川、竟、小、独、亡、破、失、を、患、ひ、山、本、大、本、兩、先生、其  
詳義と老師に乞て、是、世、公、公、以、前、人、未、嘗、の、變  
化と、示、し、詳、義、捷、徑、自、他、老師の學風と、具、と、

碓波長谷川先生閱

算法通解

全十卷

藤樹山本先生 同編  
成淵大木先生 同編  
柳山宮本先生 附録

今例圖の内外に方圓、横斜、ホの雜形を、  
容る秘術と、輯録と、し、て、例圖、全圖、小還原  
一、て、秘、訣、を、索、む、故、ホ、容、る、所、の、雜、形、も、還、原、  
秘、小、意、一、く、屈、伸、を、あ、ら、卷、中、で、屈、伸  
變化の理を、詳、し、く、詳、義、を、示、す  
世に上本、此、出、教、本、何、り、と、い、へ、も、詳、義、者、略  
の、く、初、学、通、曉、一、難、由、名、年、紙、字、を、用、く、  
秘、訣、成、志、者、一、詳、義、の、傍、小、注、を、加、し、初、学、乃  
手、引、と、以、て、合、點、一、安、き、書、古、本、あり

朽木軒村田先生編

算法側圓詳解

全一冊

藤樹山本先生 同編  
鳳堂秋田先生 同編

點竄手引艸

全十五卷

自初編至五編各三卷

藤樹山本先生 同編  
鳳堂秋田先生 同編

大全塵劫記

全一冊

八算、凡、一、相、場、刻、差、分、盈、胸、坪、刻、用、平、用、立、方  
勾、股、弦、容、術、截、術、及、天、元、點、竄、術、ホ、の、解  
義、と、人、に、示、す、の、意、深、切、一、く、初、童、初、学、  
士、と、い、へ、も、安、き、書、古、本、あり

梅坪平内先生著

算法直術正解

全一冊

法算書、小載、る、秘、訣、も、集、め、り、詳、義、を、詳  
し、其、詳、中、適、者、組、合、を、示、し、秘、訣、秘、訣、  
は、る、と、を、あ、ら、く、示、す、る、乘、を、常、に、其、良、法  
あり、初学の士、に、出、に、よ、く、示、す、る、書、と、  
一

朽木軒村田先生編

算法地方指南

全一冊

田畑及別言石盛物成豊凶検見の仕様より地方  
算法の同答と載せ得義と詳し古今粗様其  
同と論一各那の度候と擧り山谷の言候と計る法  
を亦及け出にすべし町足分足乃術小如る

鳳岳先生編

拾機算法

全五冊

此書ハ點竄術と始と上本せし出あり法約算管  
整教指差架術因理弧背木の真術とのせ出中  
之ハ漢文ありて術文の正しきを要と候

鄰白石先生編  
旭岡池田先生訂

社盟算譜

全二冊

指因周背の管術を初め是ハ一階重と云る  
因象球表の求積と指因木の妙算奇術  
抄ハ社中より廟堂小摺書と集む附録中  
球面三斜積木の尺積木を載と

湛岩井先生閑  
杉籬山口先生著

算法圓理冰釋

全二冊

球面三斜積木去積交周木の秤義及世小  
法さぬきとのと稱とる算小解成を詳あり  
初学之士と之とゆい出と一足せば師ありて  
指約術蘊奥にありと述

鄰白石先生閑  
陶水村先生著

温知算叢

全一冊

鄰白石先生の傳によりて陶水先生自注  
五ノ圓球の求積と指因木の奇題妙術と  
集録する所あり

鄰白石先生閑  
湛岩井先生著

算法雜俎

全一冊

鄰白石先生の社中自ら奇の術と案一廟堂小  
紙むと集む法算出と及ふと此書と  
階材より算と及い述小教を成法にあり

觀齋内田先生編  
龍涯堀先生訂

古今算鑑

全二冊

和漢教家の由来と挙げ本編ハ門生子  
の廟堂小揚らる指因周背の真術及  
圓球異象の求積と先哲雜影と号せし  
向ハ奇の善術と施せしと輯録と

觀齋内田先生鑒定  
權山志野先生編輯

豁機算法

全二冊

古一より疑術の出不足といとも奇の妙と奥者小  
ありて及出の右小出るとの途後進士出と獲  
點竄一より自ら算法の妙とほふと

池田先生監定  
稿本先生著述

算法點竄初學抄

全一冊

此書ハあまりの算出たれとて、き術文を  
記信するに及ふハ等足一と小知の時を師  
ありて點竄及比例木の理と自注し何る小  
のぞみても自在あり、此るれ及成る

城山竹内先生閑  
神山小林先生著

算法瑚璉

全一冊

け出始初学解一易き算術と出、末小を  
國文字に算術と云、是れ極教綴術指約術木の  
活動因理の妙用委くハ一冊中に含ると候

南谷市川先生編

合類算法

全一冊

因幡小狐と穿去をる所の内面積とを求めたり法  
算去小淵と難数の求積と方陣及容題木の妙術と  
集成を初学之士といへどもは書とゆふははる所の  
すゝやう小教理極るにあり

豫山創持先生著  
逸齋野村先生訂

探蹟算法

全三冊

世小題術の書不足といふも演証四理の奇術妙術に  
よてはけ去に過るものなり一依うけ去の本法は  
ユ丈せられ四理の微妙と發明するなり

著隻御粥先生編

算法淺問抄

全一冊

此書の淺問と考らる禪禪と世小題術の法  
と初めを学ひよる君をへ傳ふる時へ其理法會  
はるもの一冊ともふるなり且追加方陣の通  
術は古今未だ有るはけの術なり

坂先生編

算法學海

全三冊

天元演段角法輝於添刺容題截積整數  
變數變式極數截積諸約數管括差架架術  
本と載と初学之士は小固くそへあり

備溪長谷川先生問  
柳山宮本先生編

算法整數

全三冊

難題の整數より直方四球例同木の容題小  
なるゆゑ奇雲有は整數と考る解法と詳  
は初学之士は書小固くとはけいなり

福島順基先生著  
大橋餘英先生改正

將棊絹篩

全二冊

昔より筋組の本教多ありといへども當世の風小  
不合故に今流りの筋組定跡は奥多成委く  
何なり教ら出るれば是れハあるなり

將棊獨稽古

全二冊

嚮ふ大は筋組絹篩小選るを括ひ箱の何なり  
なれ百形千變の術ありぬる事あり初学師  
は是れと考らるる蘊奥成究むべきあり

名久大橋宗英先生著  
一名絹篩二編

將棊步式

全二冊

け書は定小様行り絹篩小漏る筋組あり  
定跡の本形ありては是れ成法にて初学方  
便に熟習するは筋組向ふると考らるるなり

大橋宗英先生著  
大橋餘英先生撰

將棊早指南

全二冊

先小絹篩歩式小教あれども初学との意味の  
解は是れを思量しは安く示し一実には是れ  
教るがごとくなまら上進なき早稽古のあり

大橋宗桂先生著

將棊妙手

全二冊

是れは筋組の技巧初学稽古の爲小指し定跡  
當時考らるる筋組ありては是れ第一の定跡  
あれは好むは方なりは是れなり

將棊啓蒙正義

全二冊

定跡の筋組と編核應と云ふ事其の熟習する時ハ  
筋組より自在ありて妙手なりなるなり

大橋宗英先生著

將碁奇戰

全二冊

此書ハ先生と當時有名の上手な精力を結んで  
奇巧と極く成程出た初学稽古の爲に作り並  
色一が四方の好手求むことの志をくふれ、余に  
命せしむ上本一と流布するものありぬ

大橋宗英先生選

將碁粹金

全二冊

先生ととりぬ當時素人の上手な精力を結んで  
妙とすし流る百番と撰くむめ、並れ、とこひ  
とと免て初学稽古の便ありしむ

伊藤宗看先生選

將碁絶妙

全二冊

此書ハ當時三家宗匠方とほりぬ有名な精力を  
肝後と云ふ妙術と云ふ一指する百番と撰く  
有り、絶く是と云ふと云ふ忽ち上手な精力を

大橋宗桂先生選

將碁明玉

全二冊

當時家元宗匠方及素人の上手な精力を結んで  
ら一撰、妙用の百番と集これ、執心のうさく  
足るいゝ熟者せを必ずなすうさひありと云ふ

大橋英俊先生輯

將碁軌範

全二冊

近來の名人を指する百番と撰く大橋をとりぬ  
手合とのせ、當時の地位とありしむ、これを當時  
考し流る、是の風と知る手本に出ぬ

伊藤看壽先生著

將碁圖巧

全二冊

世に囲碁と稱する何より手教多しと評せしむ  
お素の奇変ありし手教多きと知り、先人と碁  
斗と六百十手より又四十枚の碁と盤面小並に  
終り小只二枚ありし碁書と妙の仍り物あり

三代目大橋宗與先生著

將碁養真圖式

全二冊

け出を奇と妙との碁物百番と著し、家元秘し  
ありしと乞求し世小公よりけ出によりて、又  
ありし碁書を小並とて妙手成る碁

桑原君仲先生著

將碁玉圖

全二冊

先生碁物小妙と流る世に世の人知るところあり  
け碁物の生涯の工夫あり、又まき妙、実小け書より  
よりて碁隙に手れむとを知らし上並小妙あり

將碁玉手箱

全一冊

寛政の世に名をる上手の指するを集む

將碁童觀鈔

全一冊

二枚より手手と碁組の妙なるを流るる

將碁袖珍手段

格々初心の人と碁組れ定流とて一冊書



細井貞雄先生著  
姓序考

全一冊

世俗小戸と稱するものに於て其の序次あることを委しく考へらるるに宿願未だ乃語釈あり文字の出處を具し又解説せられしをいへり姓と稱するものに必知してはるべきなり

北林主人輯  
類題今自讃歌

初編  
全二冊

江戸現存の法名歌小傳と初学題の類題とありて和歌二千餘首と詠核足食のふし歌とありて去りて果てはいつある風洞と好まらざるに云ふに独り知る言名名の宗匠亦前後の秀舟と集成しるもの以外ありしを記す

鉄形蕙齋先生画  
今様職人畫

全一冊

七十番職人を歌合小傳ひく今の世の職人商人を擗り彩色を加へるに石川雅を北川真穂両先生後園を仍りて各自存に去りたる風流の画をみよ且和文の規矩を備へ歴代ものなり

海保漁村先生著  
周易古占法  
同 國字解

全二冊  
全二冊

以書の唐以後古占法の廢絶を嘆し上左國より下八歴代史史小徹して占法の古義を發明せし又九家虞氏の象と載せて是と洋流一六十四卦用事の月直向の法小圖と著して一覽瞭然たりむは小依く占法の妙と悟り占事小於て疑惑なく左國等と解するも心を迎へ解くべきなり

朝川善庵先生校定  
荀子箋釋

全八冊

荀子の書世小行むは唯明の正徳本のを後後極て多く考へて學者の感と益とに於るは宋板より多し本と一々謝先せまてはく考法を加へる荀子の善本に出の右小なるものなり

水藩川口先生著  
征韓偉略

全五冊

豊太岡の朝鮮征伐は我日本の武威を外小耀せり蓋舉りて國史と傳むる者考究せざるあるべし漢土朝鮮の書日本法系の秘冊と云く一毫の秘成加へば年月地理と推し事實の次第功の實否と考へべき朝鮮征伐の實録あり

植田孟繪編

官 許  
日光山志

全五冊

當 許山の勝地絶系あると謂及の辰清の仙嶽莊嚴と云ふるに世も小知る所なり去れどもたゞ金殿玉堂とのと存賞て委を知る者あり今許山に凡俗の仍るは吟詠の山路にふまて少も洩せられ描圖も居るがに足るべく山水もまして知るべし又これ小密画を加へ許山幽谷の佳系手に記がわがかる廣大ある靈山なれば異本靈草飛禽の如きも多しと作者とぶる真圖を撰字しりて詳あり然る者人小解し安し研も私を撰言その所考辨といども許山の事實小物語不を得るは許山献物ふりて悉く記を恭 官許を歴ては上本を本年に考ゆらるるに相せはるるを記す



